

# 人文会 ニュース

jinbunkai news

April 2024

NO. 146

1  
15分で読む

「いじめ」はだれに見えているのか

内田 良

15  
書店現場から

新しい街「麻布台ヒルズ」で

「普通の本屋」を目指して

赤井良隆

21  
図書館レポート

神奈川県立図書館の新しい本館が始まった

「Lib活（リブカツ）」の紹介

山下樹子

35  
編集者が語るこの叢書・このシリーズ 29

「別冊太陽」——資料とグラフィックに溺れて

日下部行洋

2023年秋季グループ訪問報告



[www.jinbunkai.com](http://www.jinbunkai.com)

## 私たちを分断するバイアス

マイサイド思考の科学と政治  
キース・E・スタノヴィッチ 著 北村英  
戦 他訳 事実でさえ合意できない人間の  
思考のメカニズムを解剖し、マイサイ  
ドバイアスという観点から現代の分断  
社会を読み解いた話題の書。 2970円

## 悲しみを言葉に

終末期の子どもと家族のこころのケア  
ドロシー・ジャッド 著 鶴飼奈津子 監訳  
白血病に罹り死を迎えた幼い患者の心の動き、家  
族や親交ある人々の心情、そして医療従事者自身  
の心のダメージへのケアの克明な記録。 4180円

## パンデミック、災害、そして 人生におけるあいまいな喪失

終結という神話

ポーリン・ボス 著 瀬藤乃理子 他訳 「あいまい  
な喪失」研究の第一人者の最新刊。喪失と悲嘆の根幹から、  
パンデミックで顕在化した人種差別等を解説。 2640円

**誠信書房** Tel 03-3946-5666  
SEISHIN SHOBO 東京都文京区大塚 3-20-6

**●人生の意味の哲学入門**  
森岡正博／蔵田伸雄編 2420円  
「私の人生に生きる意味はあるのか？」  
この問いを分析哲学的に研究する二十一  
世紀英語圏の新しい議論を紹介しつつ、  
実際に探究する挑戦的な入門書。



**春秋社** 東京都千代田区外神田2-18-6 (税込)  
☎ 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384

**500万年のオデッセイ** ビーター・ベルウツド  
人類の大拡散物語  
アフリカの最初の人類から、大陸移動、そして農業の台頭と人  
口急増まで、人類の進化の物語を詳細に描く。 3520円  
**〈痛み〉の東北論** 山内明美  
記憶が歴史に変わる時  
三陸の漁師、「外国人花嫁」たち、宮沢賢治：東日本大震災の  
直後から今に至る軌跡が綴られる、歴史の声とたたずむ。 2860円  
**アンチ・ジオポリティクス** 北川真也  
資本と国家に抗う移動の地理学  
地政学が見落としてきた運動が、聞こえなくなつた叫びが、こ  
こにある。欲望と叛乱の地理学の、野心あふれる実践。 4400円

**青土社** 東京神田神保町 ☎03-3294-7829  
http://www.seidosha.co.jp/ (価格税込)

**パブ続々、大注目1万部！**  
**隆明だもの** りゅうめい  
思想家・詩人 吉本隆明の  
語られざる素顔  
長女である著者が、父・吉本隆明とのエピソードを軸  
に、家族のこと、父と関わりあつた人たちのことを  
綴る。「吉本隆明全集」月報の好評連載を単行本化。  
吉本ばななどの初の姉妹対談も収録  
**ハルノ宵子** 1870円

**晶文社** 〒101-0051 千代田区神田神保町1-11  
Tel.03-3518-4940 Fax.03-3518-4944

## 「いじめ」はだれに見えているのか

### だれも数えられない

2022年度、いじめと不登校の件数が、過去最多を記録した。

文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（以下、問題行動調査）の結果によると、不登校の件数は小学校・中学校で29万9048件、いじめの認知件数は小学校・中学校・高校及び特別支援学校で68万1948件にのぼった。

子供の問題や課題に関する件数の増加を受けて、私たちは率直に危機意識をもつ。いじめも不登校も、早急に手を打つべき事態である、と。

ただし、「いじめ」と「不登校」の件数については、統計上の大きなちがいがある。これは、「いじめと不登

校の発生件数は、どちらが数えやすいか」という問いへの答えを考えてみるとよい。

その作業に先立って、まずは定義をおさえなければならぬ。いじめも不登校も、文部科学省は定義をもっている。問題行動調査において、両者は次のように定義されている。

### 「いじめ」の定義

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の

内田 良（名古屋大学）

苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

### 「不登校」の定義

年度間に30日以上登校しなかった児童生徒で、次の理由による者…何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。）

定義自体は、調査の実施にあたって明記されている。したがって、件数をカウントするための前提は整っている。

だが定義は記されていても、現場でその件数をカウントしようとするときに、ブレが生じる。

「いじめと不登校の発生件数は、どちらが数えやすいか」の答えは、「不登校」である。学校に出席しているか否かは、一目瞭然である。出席しているものを欠席しているとは言えないし、逆も同様である。その欠席回数

が年度間に30回以上の場合に、不登校とみなされる（ただし、欠席の理由を学校側が「病気」とみなす可能性はあるため、ブレがないわけではない）。

一方で、「いじめ」の発生件数を正確に数えることは容易ではない。

なぜなら、いじめの定義の核心は、「当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」にあるからだ。すなわち、被害を受けたと感じる本人の主観が重視される。客観的に正確な件数を把握する作業とは相容れない。

### 客観から主観へ、発生件数から認知件数へ

かつて、問題行動調査では、「いじめ」の定義のなかに、「学校としてその事実（関係児童生徒、いじめの内容等）を確認しているもの」との文言が入っていた。それが、1994年度からは、「個々の行為がいじめに当たるか否かの判断を表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うこと」という文言に置き換えられた。「事実」から「児童生徒の立場」へ、客観から主観への転換である。

第三者からは一見して楽しそうに見える関係性においても、そこで本人が苦しい思いをしていることがある。じゃれ合って笑っているようでも、その場をやり過ごすために無理に楽しそうに振る舞っている可能性が十分にある。その見えない苦痛に着目するところに、主観を重視する意味がある。

客観から主観への転換の流れは、いじめの件数の呼称にも反映された。

2005年度の問題行動調査までは、いじめの件数は「発生件数」と表記されていた。「発生件数」とは、客観的な「事実」として起きたことが前提とされている。これを、学校側が発見した件数の意味で「認知件数」と呼ぶようになった。

国立教育政策研究所が2013年に作成した「生徒指導リーフ いじめの『認知件数』」によると、「発生件数」から「認知件数」への変更は、「いじめに対する考え方を180度転換することを求めるもの」だという。そこでは、「いじめという行為は、そもそも大人(第三者)の目には見えにくく、完全に発見することは不可能です。つまり、教職員が認知できた件数は、あくまでも真の発

生件数(それを特定することは不可能ですが)の一部にすぎないのです」との認識が示された。件数が多いことを問題視するのではなく、件数が少ない場合には学校がいじめを見逃している可能性があると考えられた。

### いじめ件数の変化を客観的に把握する

犯罪学の分野では、警察を経由してまとめあげられる公式統計と、個人における実際の経験との間にあるズレが問題視されている。

警察統計は、警察に事件が届けられてはじめて件数としてカウントされる。具体的な被害があったとしても、警察に届け出されない事案が多くあることは想像に難くない。犯罪学を専門とする浜井浩一は、世論調査の手法すなわちランダム・サンプリングにより、広く市民に質問紙調査をおこなう犯罪被害調査の重要性を説く。

浜井は、「認知件数は、犯罪を測る指標の一つであり、あくまでも警察に事件が届けられ、警察が犯罪として認知したものを計上したもので、警察の対応によって大きく数字が変化するなど、犯罪発生をそのまま反映したものではない」と指摘する。

そこには、いまだ可視化されていない事案が存在す

る。すなわち「すべての犯罪が警察に届けられるわけではなく、また、届けられたとしても、そのすべてが認知されるわけではない。警察統計には多くの暗数が存在し、その暗数は警察の活動方針や認知手続の変化によって大きく変化するなど、犯罪動向を示す統計としてはいろいろな問題を抱えている」（浜井浩一「犯罪被害調査(Crime Victimization Survey)が測定する犯罪・実験調査を用いた犯罪被害調査の妥当性・信頼性についての考察」『犯罪社会学研究』第32巻、8-26頁、2007年）。

いじめの件数も同様である。公式統計として学校経由でまとめあげられる問題行動調査の数値は、いじめの客観的な実態を把握するには不適當である。

このような状況のなか、いじめの実態を客観的に把握しようと試みた調査研究がある。

国立教育政策研究所が2021年7月に発表した報告書「いじめ追跡調査 2016-2018」である。先の問題行動調査は学校が回答するのに対して、「いじめ追跡調査 2016-2018」は、子供自身が直接回答する。子供目線に立った子供自身によるいじめの

報告が、「いじめ追跡調査」である。

国立教育政策研究所は以前から調査を継続実施しており、報告書では2010年度以降の変化がとらえられている。同一地域の小学校と中学校で同じ内容の調査をくり返す方法により、精度の高いかたちでいじめの経年的な変化が確認できる。

重要な知見を、2点だけ紹介したい。

第一の知見は、小学校では「暴力を伴わないいじめ」（仲間はずれ・無視・陰口）ならびに「暴力を伴ういじめ」（ひどくぶつかる・叩く・蹴る）のいずれにおいても、総じて被害経験率と加害経験率は減少傾向である。たとえば、「暴力を伴わないいじめ」において男子児童の被害経験率は、2010年から50%前後で推移し、2016年後半からは40%前後に減少している。

他方で、中学校では「暴力を伴わないいじめ」と「暴力を伴ういじめ」のいずれにおいても、被害・加害の経験率は2010年から大きな変化は見られない【図1】。以上から、少なくとも「発生件数が全国的に増加している可能性は低いと推測」できる。

第二の知見は、被害経験率の数値を踏まえると、小学

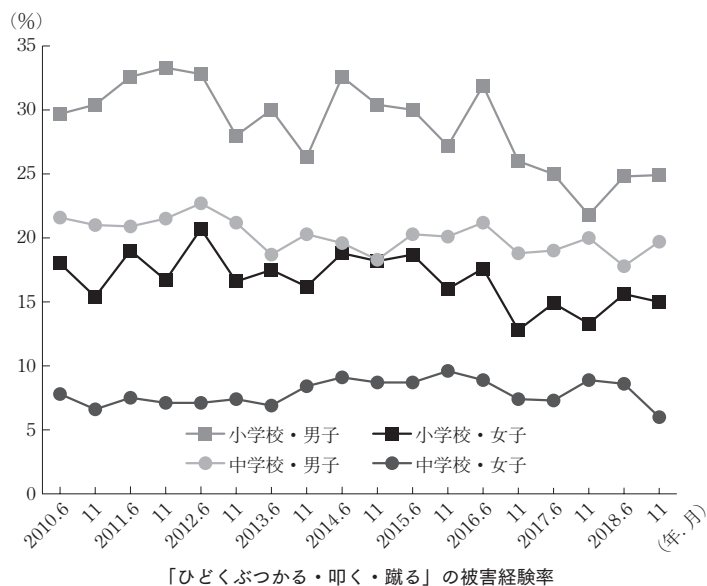
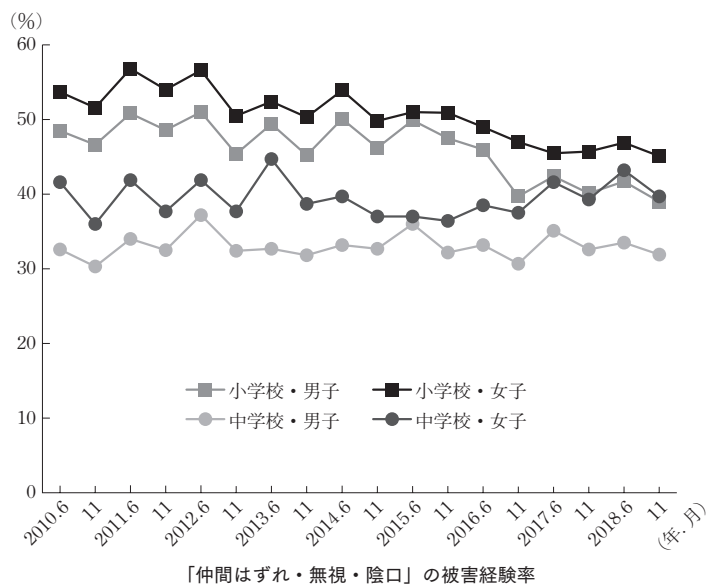


図1 「いじめ追跡調査」が示すいじめの実態の推移

校・中学校におけるいじめの認知件数（1000人あたり）は、250件程度に達すると推計されるという。

2022年度の問題行動調査によると、小学校ならびに中学校のいじめの認知件数（1000人あたり）は、小学校が89・1件、中学校が34・3件である。したがって、問題行動調査で把握されうる『認知件数』は現状の数倍にまで増えてもおかしくはない」と考えられる。問題行動調査における認知件数は、近年増加傾向がつづいているが、それでもまだ学校側の視界には入っていないいじめ事案が圧倒的に多く存在することが示唆されている。

### 認知件数と重大事態の件数とのズレ

いじめの認知件数は長年にわたって、総じて増加傾向がつづいている。

とりわけここ10年の変化を見ると、小学校低学年における件数の増加が著しい。2012年度から2022年度の増加率を算出してみると、小学校1年性が6・9倍、2年生が5・8倍、3年生が4・9倍である【図2】。

一方で、中学校では各学年2倍を下回り、高校では1倍前後である。高校3年生は0・8倍とむしろ減少して

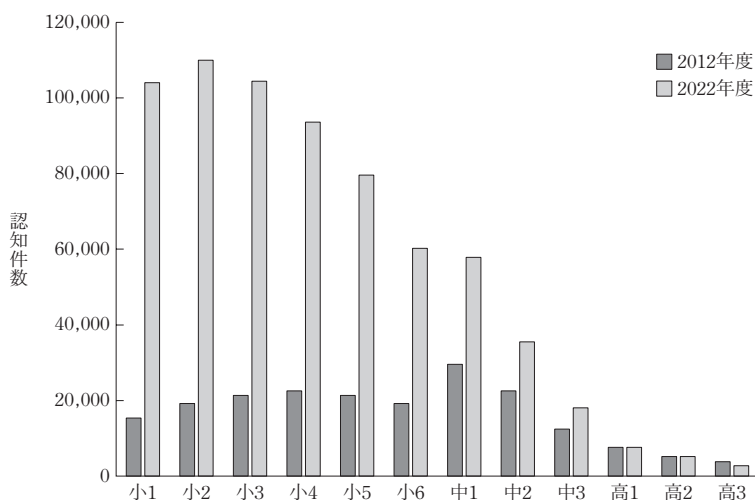


図2 2012年度と2022年度の学年別認知件数

いる。「過去最多」はなによりも、小学校低学年の積極的な認知活動によってもたらされたと言える。

ところで、最新のデータによると学年別の件数について、認知件数と重大事態の件数ではその多寡が大きく異なっていることを指摘しておきたい。

文部科学省とこども家庭庁は、2023年度より教育委員会等に対して、いじめの「重大事態」の調査報告書について、任意での提供を求めている。そこで集約された事例から、学年別に重大事態の件数が整理された。文部科学省に設けられた有識者会議「いじめ防止対策協議会」において2024年2月1日に配付された資料「いじめ重大事態調査報告書の分析状況について」に、その件数が公表されている。

なお「重大事態」とは、いじめ防止対策推進法の第28条第1項において、「いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある」と認めるとき、「あるいは「いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある」と認めるとき」と定義されている。

問題行動調査において、学校段階別（小／中／高／特支）における重大事態の件数は公表されてきた。今回の「いじめ重大事態調査報告書の分析状況について」では、それとは別に文部科学省とこども家庭庁に提供された重大事態事案が新たに分析されて、学年別の件数が明らかになった。

重大事態135件のうち、不明9件をのぞく124件について、学年別に件数を見ると、小学校5・6年生と中学校の各学年の多さが目立つ。2022年度の認知件数は、小学校2年生を頂点にして右肩下がりであることは対照的な動きである【図3】。

認知件数そのものは主観的な観点に重きが置かれている。一方で、重大事態については、「生命、心身又は財産に重大な被害」あるいは「相当の期間学校を欠席」（文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」によると、「相当の期間」とは、不登校の定義を踏まえて年間30日が目安とされている）といったように、相応の客観的な事態が想定されている。

目下のところは、定義上は重大事態に当てはまる事案であっても、学校側の理解不足によりしばしばそれが重

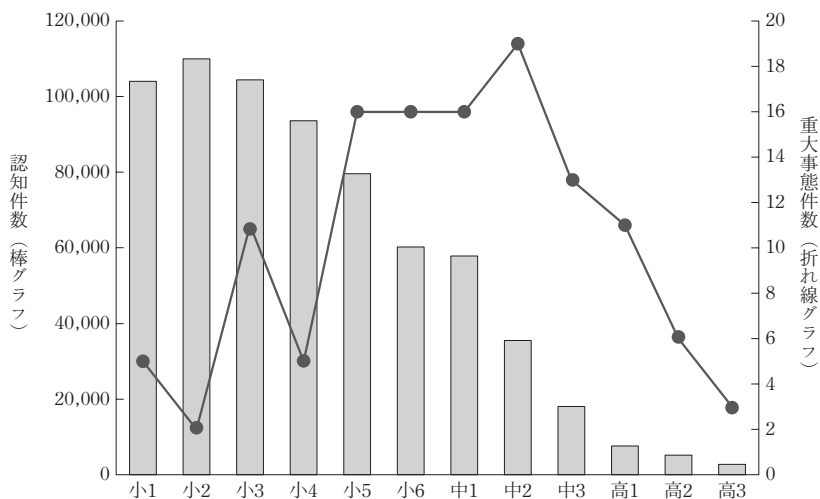


図3 認知件数(2022年度)と重大事態の件数のズレ

大事態として取り扱われないケースが多発している。その意味で、重大事態もまた認知件数とみなしうるものがあるが、客観的な指標を幾分か含んでいる点で、現実的な発生状況から遠くない結果が示されたと考えられる。

### 都道府県で大きく異なる認知件数

いじめは、学校教育を管理する側が積極的に事例の発見と対策に努めると、公式統計上の認知件数は増大する。深刻な事例が起きた翌年には、いじめを察知するアンテナが敏感になり、件数が急激に増加することもある。

認知件数にはこうした特質があるため、都道府県間の認知率は大きく異なっている。2022年度における都道府県別の1000人あたりのいじめの認知件数をグラフ化した【図4】。都道府県間の差が大きいことが一目でわかる。最大値は山形県の118・4件、最小値は愛媛県の14・4件と、その開きは8・2倍である。同じ東北地方、あるいは四国のなかでも、隣接する県間の差は大きい。

かつて、ある保護者が県のいじめ対応を非難していた――「前にも大きな事件があったのに、また起きてい

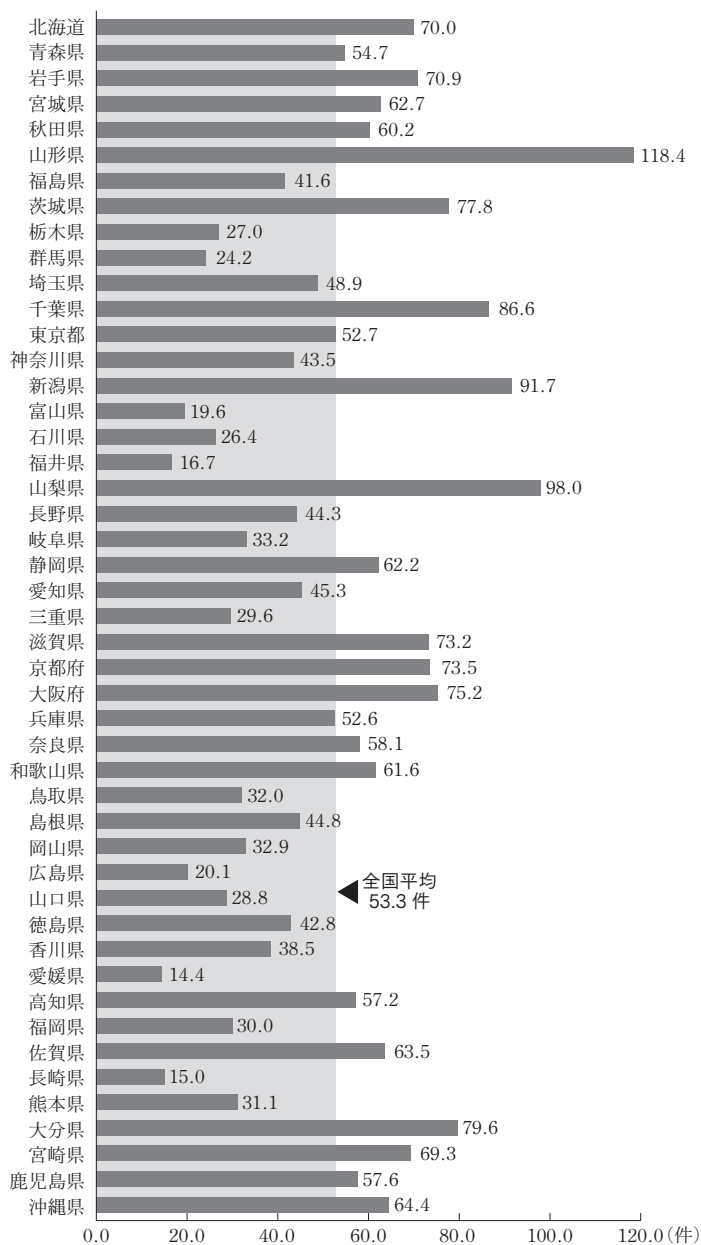


図4 都道府県別のいじめの認知件数(1000人あたり、小・中・高・特支、2022年度)

出所：令和4年度の問題行動調査の概要版、p. 13

る。件数も他県よりも多い。学校や教育委員会は、なにをやっているのか」と。

たしかに、教育委員会や学校の対応に不満があるのは私も納得できる。問題を過小評価したり、担任に丸投げしたり、保身に走ったりと、対応が粗雑だと感じるケースは少なくない。

しかしながら、ここまで述べてきたように、いじめ件数の増加は学校側がいじめを発見しようと取り組んだ成果である。当該校や当該自治体で過去に重大事案が起きた場合あるいはそうではなくとも学校や教育委員会がみずから危機意識を高めた結果、件数は増大していく。

ところがそうした解釈がはさまれる余地はなく、「学校や教育委員会は、なにをやっているのか」と、その姿勢が非難されてしまう。現場でなにが起きているか、リアリティを欠いたままに、学校叩きの語りが組み立てられている。

### 現場の困難——事実がわからない

いじめの定義自体は主観が重視されるとしても、加害者（とされる子供）とその保護者、被害者（とされる子供）と

その保護者が想定されるとき、教育現場では客観的な事実の確認を避けて通ることはできない。

ある小学校教諭は、「石を投げられた」との訴えが子供からあった事例について、事実確認のためすぐに被害者と加害者から話を聞いたときの様子を、こう語っている（詳しくは、近刊の拙著『いじめ対応の限界』（東洋館出版社、2024年）を参照）。

（「石を投げられた」との訴えがあった時点で、実際に加害者とされる児童が）きつと投げたんじゃないかなと思いました。でも、「投げたでしょう」と言ったらまずいじゃないですか。（加害者の）保護者も「先生は決めた。うちの子は投げていないと言っているのに、投げたでしょうと言った」みたいに言われてしまうと怖いので。

結局、人が見ていないからそれを証明する手段がないじゃないですか。もう相手しかいない状態だから、そういうふうに子供に「投げていない」と言われてしまったら、こっちはもう何も言えません。

（2023年7月インタビュー）

学校あるいは学級には、被害を受けたと主張する子供と、加害者とされる子供がいる。その両者が集うなかで、日常の学校生活をまわしていかなければならない。事実が確定できないままに一方的に判定を下すわけにはいかない。その結果、「私たち教員からは、一般論として『人に石を投げることはダメだよ。そういうことは絶対にしないよね』という指導しかできない」ことになる。

私がかつて2021年8月に実施したいじめに関するウェブ調査（小中学校の教員と保護者、ならびに中学生の計約2000名から回答を得た。調査は「一般社団法人いじめ構造変革プラットフォーム」（代表理事…谷山大三郎・竹之下倫志）の寄附金により実施された）では、事実確認の難しさが数値となってあらわれた。

いじめの認知をめぐる、教員と保護者を対象に、「子ども一人の話だけでは判断が難しい」と思うかをたずねた。その結果、「とても思う」の割合に大きな差があり、小学校と中学校ともに教員は保護者よりも相対的に割合が高かった【図5】。子供の間でいったいなが起きたのか、保護者が考えている以上に、現場で教員はその判断に難しさを感じている。

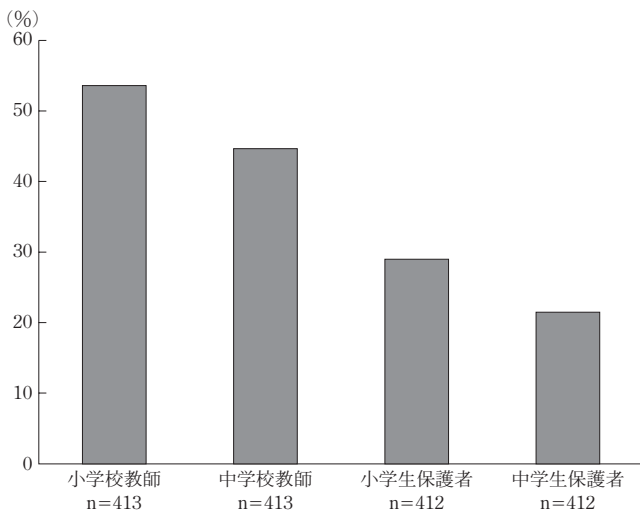


図5 「子ども一人の話だけでは判断が難しい」について、「とても思う」の割合

## 「わからない」から始めよう

学校では、子供の様子を監視カメラで記録しているわけではない。学校は、最新の科学的手法どころか、なんの捜査技術も持ち合わせていない。

学校は子供の証言だけに頼らざるをえない状況下で、やった／やっていないと子供どうしの主張が噛み合わない。そこに双方の保護者が出てきて混乱が深まることもある。大人も子供もときに自己保身にも走る。

「やっていない」という子供に「やったよね」と押し付けることもできず、結局は「やっていない」を信じるしかない。いじめ対応に悩む小学校教諭の声を聴くと、いじめ事案はそもそも学校だけでは対応しきれないように感じられる。

いじめは、現場に下りるほど、「わからない」ことだらけだ。だからこそ、「わからない」ことの追究を教員に任せるには限界があり、だからこそ、専門家の介入が必要である。

最大の問題は、『わからない』ことが知られていないことである。現場は、「わからない」ことに苦悩している。それにもかかわらず、「学校はいじめを隠蔽し、

教育委員会もそれに加担する」との先入観が独り歩きし、現場をいっそう戸惑わせていく。

もちろん、子供の痛みに向き合うことなく、「わからない」で乗り切ろうとする現場もある。そうした態度は大いに反省されねばならない。

ただ多くの教員が、真正面から事案に向き合おうにも、『わからない』ことが多すぎる。また、被害者と加害者さらにはそれぞれの保護者に対応せねばならない。こうして、安易に一方的な事実認定に突き進むことができないままとなる。

「わからない」から始めよう。いじめ理解には、熱い思いとともに、冷静な態度が必要だ。

内田 良(うちだ りょう)

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授。博士(教育学)。専門は教育社会学。4月に『いじめ対応の限界』(編著、東洋館出版社)を出版、その他の著書に『校則改革——理不尽な生徒指導に苦しむ教師たちの挑戦』(共著)、『ブラック校則——理不尽な苦しみの現実』(共編著)、『ブラック部活動——子どもと先生の苦しみに向き合う』(いずれも東洋館出版社)、『部活動の社会学——学校の文化・教師の働き方』(編、岩波書店)、『教育という病——子どもと先生を苦しめる「教育リスク」』(光文社新書)など多数。

## 15分で読む 「いじめ」はだれに見えているのか ブックガイド

出版社	ISBN (978)	書名	著者名	本体 価格	刊行
ちくま新書	4480064165	友だち地獄——「空気を読む」世 代のサバイバル	土井隆義	860	2008
ぎょうせい	4324110249	「いじめに対応できる学校」づく り——法令だけではわからない 子どもを守る実務ノウハウ	藤川大祐	2000	2021
ぎょうせい	4324108925	最新 Q&A スクール・コンプラ イアンス120選——ハラスメン ト、事件・事故、体罰から感染 症対策まで	菱村幸彦	2500	2020
黎明書房	4654023981	「学校いじめ」のメカニズムと危 機管理——「いじめ防止対策推 進法」の光と影	今津孝次郎	2600	2024
青土社	4791768011	「子どもの自殺」の社会学—— 「いじめ自殺」はどう語られて きたのか	伊藤茂樹	2000	2014
晶文社	4794970343	子どもの人権をまもるために	木村草太編	1700	2018
岩波書店	4000614887	囚われのいじめ問題——未完の大 津市中学生自殺事件	北澤毅・間山広朗編	2700	2021
講談社現代新書	4065234754	学校ってなんだ！——日本の教育 はなぜ息苦しいのか	工藤勇一・鴻上尚史	900	2021
教育開発研究所	4865605334	「幸せ」な学校のつくりかた—— 弁護士が考える、先生も子ども も「あなたは尊い」と感じ合え る学校づくり	真下麻里子	2200	2021
中公新書	4121020666	いじめとは何か——教室の問題、 社会の問題	森田洋司	740	2010
朝日学生新聞社	4904826737	いじめ 心の中がのぞけたら—— 漫画 明日がくる	本山理咲	1500	2012
講談社現代新書	4062879842	いじめの構造——なぜ人が怪物に なるのか	内藤朝雄	940	2009
中央公論新社	4120049217	いじめのある世界に生きる君たち へ——いじめられっ子だった精 神科医の贈る言葉	中井久夫	1200	2016
PHP新書	4569840772	いじめを生む教室——子どもを守 るために知っておきたいデータ と知識	荻上チキ	920	2018
エイデル研究所	4871686655	教員×弁護士 対話で解決 いじめ から子どもを守る	鬼澤秀昌・篠原一生	1800	2021
岩波書店	4002710655	いじめ加害者にどう対応するか ——処罰と被害者優先のケア	斎藤環・内田良	520	2022

出版社	ISBN(978)	書名	著者名	本体 価格	刊行
エイデル研究所	4871686822	学校管理職・教育委員会のための いじめを重大化させない Q&A100	嶋崎政男	2000	2022
明石書店	4750356587	子ども若者の権利とこども基本法	末富芳編著・監修、 秋田喜代美・宮本 みち子監修	2700	2023
日本図書 センター	4284304498	学校へ行く意味・休む意味——不 登校ってなんだろう？	滝川一廣	1500	2012
東洋館出版社	4491050577	いじめ対応の限界	内田良編著	1700	2024
弘文堂	4335359903	こども六法 第2版	山崎聡一郎著、伊藤 ハムスター絵	1500	2024

—書店現場から—

## 新しい街「麻布台ヒルズ」で「普通の本屋」を目指して

赤井 良隆（大垣書店麻布台ヒルズ店 店長）

大垣書店麻布台ヒルズ店が開店して早くも3か月が経過しました。大垣書店の新たなチャレンジである「東京初出店」、「麻布台ヒルズへの出店」について、この場をお借りしてこの数か月を振り返りかえってみようと思います。

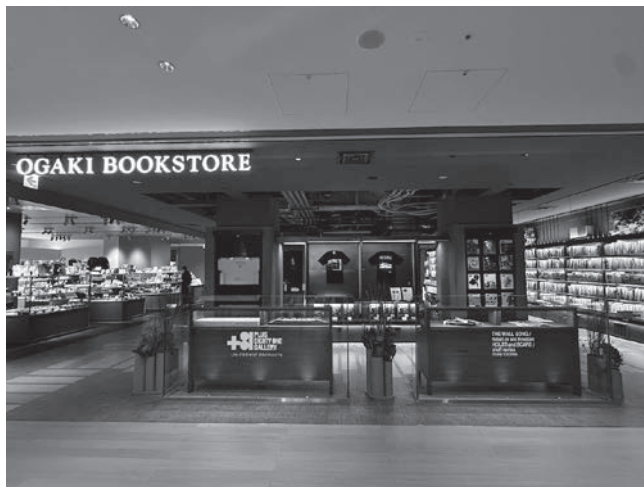
ディベロッパーである森ビル様は、麻布台ヒルズのコンセプトとテーマを以下のように設定されています。

「緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街—Modern Urban Village—」。都市の本質はそこに生きる人にあるからこそ、人間を中心に発想し、誰もが豊かに暮らせる環境をめざした「ヒルズの未来形」です。テーマは、「Green & Wellness」。自然と調和しながら、人間らしく健康的に生きられる。そんな新しい都市の豊かさを、世界に先駆けて東京から提案していきます。

とあります。大垣書店は森ビル様が手掛けられる「麻布台ヒルズ」という「新しい街」には、「大きな書店が必要である」という考えに共感し出店を決意しました。

大型商業施設への出店は弊社においてもある程度のノウハウはありましたが、「新しい街」に「どのような書店」が必要であるか、数年前から社内でも議論を進めました。1年半ほど前からはその議論に森ビル様も加わっていただき、一緒に考えながら店舗コンセプトと売場作り、品揃えまで踏み込んだ議論を行ってきました。

大垣書店麻布台ヒルズ店のコンセプトは、「本と人を繋ぐ書店」です。麻布台ヒルズという新しい街に必要な「居場所」でありつつけるために、私たちは地域と共に成長していける書店を目指したいと考えました。いつもそばには書店がある。そんな安心感のある暮らしに寄り添える存在、私たちが目標とする書店はそんな書店です。麻布台ヒルズ周辺、および港区では書店の減少が続いていると聞きました。「地域に必要な書店でありつつけよう」という弊社の社是のもと、麻布台ヒルズへの出店は「地域に必要とされる書店」を目標に掲げました。



麻布台ヒルズ店 エントランス

とはいえ、土地勘のない京都の書店が、東京の、しかも麻布台に必要な書店像を考えるのは相当の紆余曲折がありました。とにかく経験したことのないことだらけで、東京や地方の書店をあれこれと視察しましたが、どれもピンとくるものがありません。お金をかけて煌びやかな店舗を作るのも、地域に必要とされる書店という意味では違うような気がします。麻布台ヒルズであればそれもいいのではとも考えましたが、中身のない書店では地域に必要とされないと感じました。最終的に行き着いたのは「普通の書店」でした。「普通の書店」の定義とはどういった書店かというと、これまでの書店のイメージ通り、一般的な書籍をおおよそ手に入れることの出来る便利な本屋と言えば分かり易いのもかもしれません。雑誌は売れないからコミックと児童書があればいいとか、専門書や学参は必要ない、雑貨を増やして利益率の良い商品を充実させることで利益確保をするとか、書店を続けるためにどうしても「本」以外に力を入れなければならなかったこの20年で、書店が失ったものを取り戻したいと言って過言ではないように思います。本を売るためにしっかりと本を揃えること、それが大垣書店麻布台ヒルズ店の基本的な考えです。

開店後約3か月が経過し、普通の本屋を目指す当店のお客様からの反響はどうでしょうか？

私自身は大変良好と感じています。予想に反していることと言えば、思った以上に児童書が売れること。もともとある程度は児童書の売れ行きを期待してはいましたが、予想を大きく超える売上と、休日のベビーカー渋滞には本当に驚きました。少子化トレンドが信じられないくらいの混雑ぶりです。特にファーストブックの売れ行きは良く、小さなお子様連れのお客様の多さが際立っています。お子様連れのお客様がお子様のためにお買い求めになる商品がヒルズ内にはほとんどないことも要因の一つかもしれません。売上シェアも大きく、児童書と知育玩具で約3割に到

達する勢いです。この新しい街で育つ子供たちは、私たちにとって将来の重要な顧客になることは間違いありません。今後は絵本や児童書に関するイベントやワークショップを頻繁に実施することで、麻布台ヒルズにお越しになるお客様が集う場所になってゆきたいと考えています。

当店の特徴として、コーヒー&バーSlowPage（スローページ）と、ギャラリーNEUTRAL（ニュートラル）azabudaiを併設していることも挙げられます。NEUTRALは弊社の堀川文化ビルディングで培ったノウハウとネットワークを生かし、京都と麻布台を繋ぐ企画展示を行っています。またSlowPageは、カウンター8席のみ、ドリンクとアルコール、フードはカレーのみ、ちょっとゆっくりお過ごしいただけるカフェスペースです。サイフォンで丁寧な淹れたコーヒー片手に読書を楽しんでいただける空間をご提供することが役割です。ギャラリー、カフェ共に当店スタッフが運営しており、ほとん



絵本コーナー（Ehonギャラリー）

どのスタッフがカフェ業務をこなすことが出来ます。カウンターで本に纏わる話で盛り上がり、文壇バーや読書会の会場にも利用できるスペースとしても活用の幅をひろげたいと考えています。「ちょっと気軽にコーヒーが飲める」「ゆっくりと過ごすことが出来る」場所が、意外とヒルズ内になかったことで、結果的に書店内でゆっくりしていただき売上にも繋がっているように感じます。

開店から早3か月が経過しましたが、まだまだ麻布台ヒルズは完成していません。これまで36年を費やした物件だけに、ヒルズ内にはまだ開店していないラグジュアリーブランドや、ホテル、マーケットがあるだけでなく、日本一高いビルである「森JPタワー」内オフィスの入居、レジデンス2棟への入居など、新しい街の機能は初期段階の状況です。これから住む人、働く人が増えることで、街が活性化し、人と人が繋がる場所が必要とされるでしょう。今後は



トークイベント(閉店後、売場内で開催)

大垣書店が麻布台ヒルズの中でハブとなり、場所を提供することで、本と人を繋げるための売場作りやイベントを企画してゆきたいと考えています。麻布台ヒルズという、いま最も注目の場所に入居している書店として、ブランド価値を生かしつつ、本屋としてしっかりと本を売ること、利益を確保し、持続的に書店を経営することが出来るモデルを作ることが、当店に期待されていることであると考えています。新しい取り組みには積極的に取り組むことをモットーとしておりますので、出版社様を始めとして、書店での新展開を書籍の売上に繋げる工夫が出来る取引先様は、奮ってご提案をお待ちしております。

赤井 良隆（あかい よしたか）



著者近影

## 神奈川県立図書館の新しい本館で始まった 「Lib活(リブカツ)」の紹介

### はじめに

神奈川県立図書館は、施設・設備の老朽化や、資料の収蔵スペース不足などの課題に対応するとともに、新たな魅力を備えた図書館とするための再整備を実施している。これまでの「専門的図書館」、「広域的図書館」としての機能に加えて、新たに「価値を創造する図書館」の機能を付加した新しい本館、「魅せる図書館」としての機能を付加した前川国男館(旧本館)、収蔵庫としての役割を持つ収蔵館の3館に生まれ変わることになった。この事業は2020年から2026年までを予定してい

る。

山下 樹子(神奈川県立図書館 資料部 図書課)

2022年9月1日、神奈川県立図書館の新しい「本館」が開館した。実際に利用をしてみても、これまでの神奈川県立図書館とは違うという印象を抱いていたけれど、開館準備に携わってきた者としては有難く嬉しいことである。ただ、本誌の読者はこの図書館を訪れる機会が少ないと思われるため、スペースの詳細ではなく、新しい本館のコンセプトと、それを実現するための新規



新しい本館  
紹介サイト

事業、その企画の準備段階で行った経営戦略分析について紹介したい。主に、筆者が所属したプロジェクトチームによる活動の報告になる。

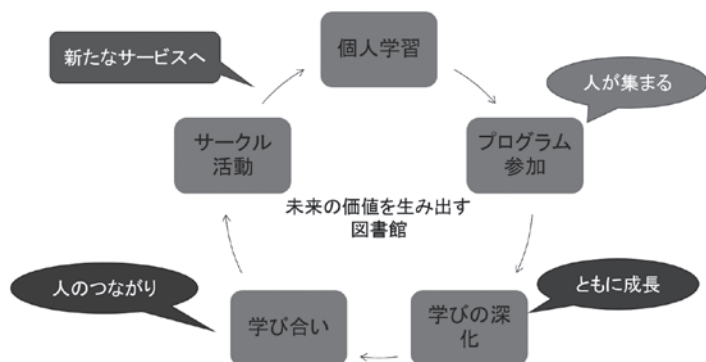
## 1 本館の「コンセプトと機能」

2016年に神奈川県教育委員会が発表した「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」の中に目指すべき県立図書館像が示されている。都道府県立図書館の専門的、広域的機能を基本に、新たに「価値を創造する図書館」、「魅せる図書館」としての機能を付加するというものである。本館の中心的な機能である「価値を創造する図書館」とはどのような図書館なのか。前出の「基本的な考え方」には、「本を介して人と人が交流し、図書館の専門性や広域性を活かして、さらなる学びにつなげていくことを支援していく」とある。これをコンセプトとして、本館のソフトとハードを考えた。

これまでの神奈川県立図書館では、資料提供やレファレンスサービスといった個人学習の支援が中心であった。図書館を利用した人による研究の成果発表の場も特に設けていなかった。そのため、コンセプトである「本を介して人と人が交流する」、「さらなる学びにつなげる」を実現するために、学びのきっかけ・気づきを始点に、個

人での読書や調査、他者との議論や知識の共有、成果を発信し社会へ活かす、それが新たな気づきへつながる、といった学びを深めていく仕組みの構築を検討した。その仕組みが「交流の場」となり、さらなる学びから新たな成果を生み出す活動拠点が「創造の場」となることを目指して、新規事業を立ち上げた(第1図参照)。これにより、これまでの図書館の「自習の場」、「貸出の場」というイメージに加え、「交流の場」、「創造の場」という新たなイメージへの発展を目指した。

この、学びを深める仕掛けとして立ち上げた新規事業が「Lib活(リブカッ)」である。従来の学びの機会であった講座は「講師対受講者」であり、受講者同士のつながりを生み出すものではなく、受講後の学習のフォローは関連資料の紹介のみであった(単発・受動型)。新規事業「Lib活」では、関連資料を読み、内容や感想を発表しながら共有する機会をつくり、共に課題に取り組むプログラムを用意し、受講後の参加者同士の交流を促している。同じ興味を持つ仲間と共に、専門家の知見を活かしながら、交流を通じて知識を広げていくという仕掛け(継続・能動型)である。図書館「Library」の中で



第1図 神奈川県立図書館本館 新サービスコンセプト



「部活動」のように、探究心を満たす学びの体験を提供することを目的としている。その上で、学んだ成果を発表する場も準備した。受講後に希望者が図書館で身に付けたスキルをもとに活動する機会を用意するというものである。

これまでの神奈川県立図書館にはディスカッションや共同作業に適した場所はなかった。本館のコンセプトに基づきこれらの機能を実現するためには、「Lib活」のようなアクティブ・ラーニングに適した場所が必要となる。また、さらなる学びを推進するために、個々の学びを深める場所、学びの基本である読書に適した場所も必要である。そのような観点から、空間をデザインしていった。本館は地上4階建てで

ある。資料は、1階に社会科学資料、2階に地域資料と歴史資料、3階に人文科学資料を配置している。4階は「学びの交流フロア」という名称で、資料はない。個人研究からグループ学習、ディスカッションまで、さまざまな学びのスタイルを実現す

るフロアである。グループ学習向けの座席として用意した「学び⇄交流エリア」は、大学のラーニング commons のような開放感のある空間だ。会話が可能なスペースであり、椅子や机は可動式で、ホワイトボードが自由に使える。ここで、「Lib活」をモデル事業として実施し、このエリアの利用の見本を示すことにより、将来的には自主活動による利用を活性化することを目指した。

## 2 機能を実現するための「Lib活」

「Lib活」とは「学びを深める仕掛け」としてのプログラムの総称であり、3つの連続講座から成り立っている。3講座とも、すべての開催回に出席することがメンバーになる条件となっている点が大きな特徴である。人脈をつくるもの、成果物を作成するもの、技術を身に付け活動に移行するものと、それぞれに「売り」となるものがある。コンセプトや具体的な開催内容について順に説明したい。

### 〈Lib活…afterゼミ〉

「afterゼミ」は、平日の夜、働く世代に身近な課題を「図書館」で考える、ちょっとフォーマルで、すごく緩やかな語らいの場です。

ゼミでは、各回異なるゲストを招き、テーマに基づくレクチャーと、みなさんを交えた対話の場が開かれます。

そして、各ゼミの後日、気軽に参加できるブッククラブも開催します。一緒にゼミのテーマに関するお薦めの本について紹介し合ったり、語り合ったりしませんか？

右記は、広報に用いている紹介文である。「一人ひとりが何らかの探究者である」というコンセプトのもと、働く世代に身近な社会の課題について学び議論できる場を設け、利用者個々の知の形を作るきっかけとなる連続講座として企画した。テーマを設定し、話題提供者を招き知識・情報を得た上で、参加者同士が議論をする「ゼミ」と、ゼミのテーマに関連する本を読み、希望した参

加者同士が感想を交換し合う読書会「ブッククラブ」で成り立っている。ゼミは月1回、金曜日の夜に開催し、ブッククラブは月1回、日曜日の午前に開催している。1年を1期とし、第2期にあたる令和5年度には、5回のゼミを開催した。合わせてブッククラブもう回開催したため、合計10回、メンバーは顔を合わせる機会があった。

ゼミにはファシリテーターが1名おり、各回の話題提供者から話を引き出し、メンバー同士の意見交換を促す役割を担っている。この役割は、ゼミの企画段階から有識者としてご協力いただいていた東京藝術大学社会連携センター教授の伊藤達矢氏に依頼した。話題提供者は、テーマに関する「当事者」であることを条件としている。その道の先生という立場の方から評価が加わった講義をしていただくのではなく、当事者として体験を語ってもらい、それを聞いた各人が自分の中で考え、他者と語ることでさらに考える、誰かのフィルターを通した知識を授けてもらうのではなく、自らの知を自分で形作るということを目指している。

テーマを考える上で条件にしたことは、よく耳にする

けれど実はよくわからないこと、職場では話題にしづらいことである。例えば、「スタートアップ」と「ベンチャー」の違いや「エシカル」や「サステイナブル」といった、知っているようで説明しようとするときよくわかっていないこと、「選択的夫婦別姓」や「フェミニズム」など、関係性を考慮すると話題にするのはハードルが高いと感じることについて、自分の考えを持つためにはないかというところから考えていった。

令和4年度第1期テーマは「働くことと暮らすこと」。「パラレルキャリア」、「セルフプロデュース」などのキーワードから考え始め、さまざまな人から情報を寄せていただき、手に取った本や雑誌、地元のニュースなどからヒントを得て検討を重ね、設定した各回のテーマと話題提供者の顔ぶれは次ページの表の通りである。令和5年度第2期テーマは「暮らしを守ること、続けること」である。

### 第1期の各回テーマと話題提供者「働くことと暮らすこと」

	各回テーマ	話題提供者（講師）
第1回	「仕事」って何だろう？	ナカムラケンタ氏（日本仕事百貨代表）
第2回	お金に負けない働き方	吉田奈緒子氏（半農半翻訳者）
第3回	最小単位で働く 個として働く面白さ	ミネシゴ氏（合同会社アタシ社代表社員／編集者）、 三根かよこ氏（合同会社アタシ社デザイナー）
第4回	「新しい仕事」を作るには	幅允孝氏（有限会社バッハ代表／ブックディレクター）

### 第2期の各回テーマと話題提供者「暮らしを守ること、続けること」

	各回テーマ	話題提供者（講師）
第1回	エシカルについて考える	末吉里花氏（一般社団法人エシカル協会代表理事）
第2回	サステナブルに暮らしたい	服部雄一郎氏（翻訳家／文筆家）、服部麻子氏（文筆家）
第3回	農のある暮らし～千年続く農業～	仲野晶子氏（SHO Farm代表） 仲野翔氏（SHO Farmメンバー）
第4回	捨てない未来	枝元なほみ氏（料理研究家／認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表）
第5回	“フェア”な暮らしが世界を変える	村田薫氏（ビーブルツリー／グローバル・ヴィレッジ創設メンバー）

### 〈Lib活〉県民が編むかながわの半世紀

「県民が編むかながわの半世紀」は、受講者自らが神奈川県についての年表等を作成し、刊行を目指す連続講座です。

例えば、『神奈川県史』は昭和58年に刊行され、それ以降の神奈川県の歴史はまだまとめられていません。この講座は、まだまとめられているものが少ない神奈川県現代史を、私たちの手で編んでいけないかという思いから始まりました。

講座では、神奈川県の高度経済成長期以降の動きや特徴的な出来事について、講義や受講者同士での議論を通して理解を深め、図書館資料等で調べて成果をまとめる活動などを行います。

現代史に興味のある方、歴史について調べて執筆してみたい方におすすめの講座です。

右記は、広報に用いている紹介文である。根拠に基づいた調査とグループでの共同作業や議論を通じて学びを深め、県民自らが執筆する神奈川県の半世紀（およそ高度経済成長期から2020年までを想定）・現代史に関する年表

等を作成し、刊行を目指す連続講座として企画した。アドバイザーや講師による講義およびメンバー間のディスカッション等がベースとなっている「研究会」、グループで課題に取り組む日である「実習日」、個人やグループでの自主的取り組み日で任意参加の「自主活動日」、どなたでもご参加いただける本講座に関連した16ミリフィルムの上映会「郷土映像上映会」で成り立っている。令和4年度の第1期は、研究会と実習日はそれぞれ全5回、自主活動日は3回設けた。

メンバーによる調査と執筆活動は、コーディネーター、アドバイザー、サポーターがフォローする体制になっている。コーディネーターは横浜学がご専門であり、横浜市の編纂にも携わったフェリス女学院大学名誉教授の大西比呂志氏に依頼した。サポーターは調査方法のアドバイスをする役割として、大学生等に依頼をしている。アドバイザーは都度、内容に関係の深い専門家をお呼びしている。第2期では神奈川新聞社のアーカイブ担当である平松晃一氏などに依頼した。

神奈川県立図書館では、令和2年度まで「大人の自由研究応援講座」というシリーズ講座を開催してきた。学

術的なレポート・論文の書き方から始まり、本の探し方、事典・辞書の使い方、雑誌論文の探し方、データベースの使い方、講座群であり、すべて受講すれば研究成果を執筆することができるという仕組みである。しかしながら、研究成果を執筆しても、学会誌への投稿はハードルが高く、自費出版をするには費用もかかり、発表する機会はなかなかないのが現実である。ウィキペディアの執筆イベントは発表機会の一つであるが、すぐに修正できない刊行物を目指すことであえてハードルを上げたいと考えた。時間をかけて、自己流ではなく一定のクオリティを保った成果物を作成し、それを発表し、後の研究者に伝えるところまでを図書館が支えるという仕組みとして検討を重ねた。

令和4年度第1期では「神奈川県半世紀を捉えるための基礎となる年表の作成・編集」を行った。1980年以降の神奈川県を捉えるための年表を各参加者の視点からまとめてもらった。成果物は、ホームページに公開している。令和5年度第2期は「変貌する県の姿（まちづくり、交通網、インフラ等）」を大テーマとして参加者によるレポート作成とグループごとの成果をまとめている。

これらの成果物は、今後数期分をまとめた形で刊行することができればと考えている。

#### ＜Lib活…本を選び、本を読み、本を朗読する講座＞

本の好きな人が集まり、朗読会を行います。朗読会に向けて、本の選び方や声の出し方、本の紹介方法などを学んでいきます。

講座終了後、希望される方は、県立図書館で開催される「ボランティア入門講座」を受講後、県立図書館ボランティアとして活動できます。

右記は、広報に用いている紹介文である。県立図書館の蔵書を来館者に朗読するために必要な技量を身に付け、実際に朗読会を開催する活動を通して、県民の皆様の学習活動を支援するために企画した。講座修了後は、希望する受講者が神奈川県立図書館のボランティアとなり、定期的な朗読会を開催することで、多くの方が県立図書館の蔵書や施設に触れ、活用するきっかけづくりとなることを目指している。

神奈川県立図書館では、毎年「ボランティア入門講座」を開催しており、図書館でボランティア活動にも参加していただいていた。そこから一歩進め、ボランティア活動に熱心に参加してくださる方にとって自己研鑽にもつながる活動を通して、「役割を与えられることを待つ」のではなく、「自ら役割を生み出し活動する」ことを支援したいと考えた。図書館という学びの場で知識や技術を身に付け、図書館でそれを活かし、将来的には自ら希望する活動の場や方法を選択して図書館から羽ばたいていくというモデルを描き、まずは図書館の本を用いた朗読から始めることとした。1年目は朗読講座を開講し、2年目はその講座の修了生がボランティアとして図書館で活動するという2年間で1期とし、令和4年度に朗読講座、令和5年度には年4回の朗読会を開催した。図書館ではよく子ども向けのお話会が開催されているが、この朗読会は神奈川県立図書館の蔵書であれば、絵本から小説までさまざまな本を対象としているため、どなたでも聴くことができる。朗読会では毎回テーマを設けて本を選択している。2023年9月には、神奈川県立図書館開館1周年を記念し、「おめでとう」をテーマに

開催した。

この講座では、本の選び方や声の出し方、本の紹介方法などを学ぶ。講座の講師で、朗読会では朗読も披露していただいているのが、フリーアナウンサーで書評家の北村浩子氏である。自ら朗読会を主宰したご経験もありだったことから朗読講座の立ち上げにご協力をいただいた。その際に、こだわり、心を配ったのが、講座のネーミングである。堅い印象を与えず、受講者の応募条件である「本が好きな方」が気軽に申し込めるよう、「本を選び、本を読み、本を朗読する講座」という名前が生まれた。朗読会の際には、本を読む前に本の紹介も朗読者が行っているが、その本を選んだ理由も垣間見えるようなその技術は、この講座ならではのものと思われる。

朗読会は、申込不要でどなたでもお聴きいただくことができる。神奈川県立図書館のX（旧ツイッター）や、イ

ンスタグラムで情報提供しているの  
で、生の朗読を聴く貴重な機会として  
いただきたい。



Lib活  
アーカイブ  
サイト

以上3つの連続講座について説明した。Lib活の様子はホームページのアーカイブにおいて公開されている。当館司書等による当日のレポートも掲載されているので、内容や雰囲気、参加者の感想についてはそちらをお読みいただきたい。第1期、第2期と回を重ねるごとに、運営上の課題や参加者の要望などが把握できたため、今後さらにブラッシュアップする予定である。本稿において紹介した内容は、あくまでも令和5年度時点であることをお断りしておく。

### 3 「Lib活」が生まれるまで

最後に、学びを深める仕掛けとして立ち上げた新規事業「Lib活」は、どのように企画されたのかについて紹介したい。企画にあたり、常に意識をしたものは、神奈川県立図書館のミッションである基本理念だ。

#### 〈基本理念〉

神奈川県立の図書館は、「知」を集積し、新たな「知」を育む「価値創造」の場として、神奈川の文化

と産業の発展、社会づくりに寄与します。

この「価値創造の場」としての機能をより強化し、「利用者アンケート調査」から把握した図書館を利用して、質の高い学びの場」として活用されることを目指し、本館の「学び⇄交流エリア」が活用される仕組みを構築するために、「新棟研究エリア検討チーム」が結成された。このチームを中心に、令和4年度からスタートした連続講座「Lib活」が生み出されたが、背景として、「after5ゼミ」と「県民が編むかながわの半世紀」の企画立案までの戦略分析について紹介したい。

イベントを企画するにあたり根拠としたものは、2016年に神奈川県教育委員会が発表した「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」である。そこには、新しい図書館の機能として4点が示されている。

- ① 本を介して人と人とが出会い、学びあう機能
- ② 講座等を通じて専門家と出会い、学びを深める機能

- ③ 県の文化行政の核となる紅葉ヶ丘地区の価値創造支援機能
- ④ 生涯学習の拠点としての機能

企画の準備として、現状を捉えるためにSWOT分析を行った。「神奈川県立図書館」の外部環境には、機会として、定年延長による「大人の学び」に対する需要の拡大、人生100歳時代のサードプレイスの必要性、SDGs「すべての人に質の高い教育を」への取り組み、有料自習室の増加傾向等が挙げられた。脅威として、人口減少、孤立化やコミュニティの弱体化、情報格差の拡大等の社会的課題が挙げられた。内部環境には、強みとして、所蔵した資料を原則として永年保存するため、幅広い年代にわたる蓄積したコレクション、特に神奈川県に關係する幅広い資料を持つこと、昼間人口（企業）の多い地区に所在すること、新しい本館では多様なスタイルの学びに対応した「学び⇄交流エリア」が設置されること、弱みとして、商業施設等と比較し閉館時間（19時）が早いこと、来館者数、相談数、貸出数等の利用の減少傾向、中でも女性と若年層の来館利用が少ないこと等が挙げ

げられた。

これらの結果をもとに、クロスSWOT分析を行い、企業の多い地区に所在するという強みを、脅威と捉えられる社会的課題の克服に活かせるように、働く社会人を対象とし、身近な社会の課題について継続的に語り学ぶ「afterラゼミ」を夜間に開講することを企画した。これにより、なかなか図書館を利用する時間がない働く世代に、図書館が問題意識を持つ人にとっての学びの場でもあるという認知を広げることを目指した。

また、神奈川県全体に関する豊富な資料と「学び⇕交流エリア」の設置という強みを「大人の学び」需要拡大という機会に対して活かすことにより、仕事中心の生活から卒業した世代を主なターゲットとし、県民の手で神奈川県史の歴史をまとめ、県史の刊行を目指す長期プロジェクト「県民が編むかながわの半世紀」を企画した。学びに興味を持つアクティブシニアがコンテンツを生み出す場を提供することにより、サードプレイスとしての認知を広げることを目指した。

以上の分析から、新しい図書館で始める講座は、新たな「知」を育む「価値創造」の場としての役割を強化す

ることを目標とし、市町村図書館とは異なる資料群をもとに、調査研究を通じて自己成長を目的とした大人向けの「学びの場」を提供することを目指すものとなった。

これまでの図書館で開催してきた講座との違いは3点である。1点目は、知識を得るだけでなく、複数回にわたり他者と共に学ぶことにより、人脈も得られる機会となること。2点目は、同じメンバーによる長期プログラムとなるため、図書館へのコミットメントが高まること、メンバーの活動が新しい図書館の使い方のお手本になること。3点目は、ゼミ形式や発表の機会がある能動的な学びは公共図書館の企画としては新規性があること、である。

## おわりに

新しい本館開館とともにスタートしたLib活は、1年目、2年目と、順調に活動実績を積み上げている。申込状況は好調で主催者としては嬉しい結果となっている。2023年11月には、3つの講座の修了生と受講生が交流する場として「Lib活交流会」を開催した。図書

館や本を通じた交流が広がるための手助けの一つとして企画したが、修了生、受講生以外にLib活に興味がある方も参加可能であったため、活動を知っていただく機会にもなった。

そして、最も嬉しいニュースは、after5ゼミ第1期修了生有志の皆さんが自主活動を始めているということだ。図書館という場所出会った人々、知ったこと、考えたことから、新たな「価値」につながる循環が動き出している。この循環を絶やさぬようアップデートを怠らず、「価値を創造する図書館」のモデルになれば幸いである。



写真1：神奈川県立図書館新しい本館の外観写真



写真2：神奈川県立図書館再整備の対象となる  
「本館」、「前川國男館」、「収蔵館」の位置関係

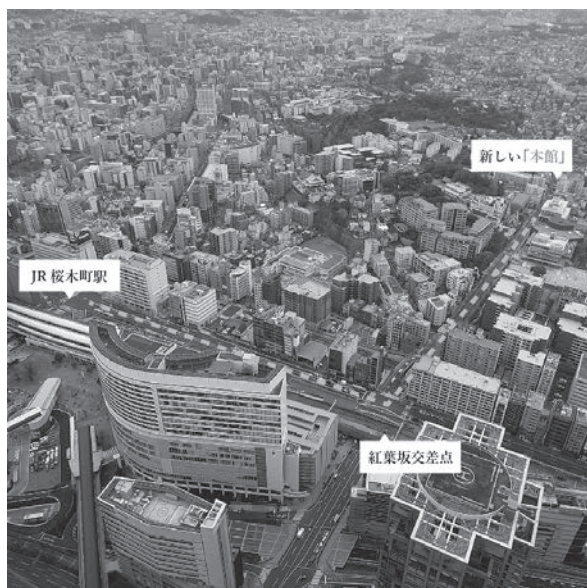


写真3：最寄駅から神奈川県立図書館本館まで



写真4：神奈川県立図書館本館1階「閲覧エリア」



写真5：神奈川県立図書館本館4階「学び⇄交流エリア」

— 編集者が語るこの叢書・このシリーズ ② —

## 「別冊太陽」——資料とグラフィックに溺れて



創刊50周年を記念して、染色家の柚木沙弥郎さんに制作していただいたロゴマーク。

日下部 行洋（平凡社「別冊太陽」編集長）

創刊から半世紀。「いつまでも残しておきたい一冊を——」

平凡社より半世紀にわたって刊行している「別冊太陽」（一九七二年二月創刊）という大判カラーのムック・シリーズについて、この場をお借りして、ご紹介させていただきます。

おそらく新刊書店の店頭もさることながら、「別冊太陽」といえば、あるいは古書店の店頭で、山と積まれているのを目にした方も多いのではないだろうか。現在、平凡社がある神田神保町界隈を歩いていると、そこかしこの古書店の店頭に、日焼けした七〇年代、八〇年代の「別冊太陽」が、ずらりと、ずっしりと、ほんと、積ま

れているのをよく見かけます。ふと手に取って、まず裏の値札を眺めてみると（職業的習癖でしょうか）、それほどは安くはない値付けです。なんとなく嬉しい気分になるような。テーマによっては、つい自分で買ってしまいうこともあります。

「別冊太陽」とは、どのようなシリーズなのか、平凡社のサイトでは、このように紹介しています。

月刊『太陽』の創刊が、1963年。それから10年後、「よりデラックスな雑誌を」という読者の声に応え、別冊太陽はスタートしました。以来、美しいビジュアルと豊富な資料とともに、毎号一つのテーマを深く掘り下げて紹介しています。いつまでも残し



創刊号『百人一首』(1972年)表紙

ておきたい一冊を——。別冊太陽は、今後も過去と未来を照らし続けます。

さて何を照らし続けるのやら、ですが、つまり大判のカラー誌面(横44センチ×縦29センチの大見開き)に、贅沢な図像素材や写真を掲載し、その道の第一人者の先生に深々と監修に入っていたたく「ワンテーマのビジュアル・ブック」というものです。テキストは本格派で、図像も数百点近くたっぷり。「二冊で」まるまるその世界を体験し、理解を深めていただければ、という思いで、孜々

営々、編集部一同、制作しているシリーズになります。創刊以来、数えてみたら、全七七〇巻を超えていました。「デラックス」というのも懐かしい言葉ですが、惜しみなく素材を投入するので、編集にも印刷にもとても手間暇(とお金)がかかります。

志は、「いつまでも残しておきたい一冊を」(古書店の店頭においても、なお)です。

取り上げるのは、美術、建築、デザイン、工芸、芸能、宗教、民俗、文学、思想、映画、音楽、漫画、などなど、硬軟とり交ぜた『日本文化』です。せっかくの機会なので、二〇二三年一月から最新刊(二〇二四年四月)までの書目をざっと並べさせていただきます。

『佐伯祐三——その眼がとらえた風景』(二〇二三年一月刊)、『地図と楽しむ 中井精也の鉄道絶景』(二月刊)、『江戸川乱歩——日本探偵小説の父』(二月刊)、『牧野富太郎——雑草という草はない』(三月刊)、『親鸞と浄土真宗のころ——親鸞聖人御誕生八五〇年 立教開宗八〇〇年記念』(三月刊)、『小さな木の家に暮らす。——家はつまり、思い出のあとさき』(三月刊)、『新版 金子みすゞ』



最近のラインナップの数々

——生誕120年記念』（五月刊）、『石田徹也——聖者のような芸術家になりたい』（六月刊）、『日本のブックデザイン一五〇年——装丁とその時代』（六月刊）、『河合隼雄——たましいに向き合う』（六月刊）、『ル・コルビュジエ——モダニズム建築の美を追いかけて』（八月刊）、『棟方志功——仏も鬼も人も花も愛おしい』（九月刊）、『宮沢賢治——ほんたうのさいはひは一体何だらう』（一〇月刊）、『小泉今日子——そして、今日のわたし』（一〇月刊）、『〈太陽の地図帖〉大和和紀『あさきゆめみし』と源氏物語の世界』（一一月刊）、『源氏物語の色と装束』（一二月刊）、『日本鉄道模型図鑑』（一二月）、『川瀬巴水と新版画の作家たち——逝きし風景を求めて』（二〇二四年二月刊）、『探偵小説の鬼 横溝正史——謎の骨格にロマンの衣を着せて』（三月刊）、『日本のグラフィックデザイン一五〇年——ポスターとその時代』（三月刊）、『日本初の女性裁判所長 三淵嘉子——「愛の裁判所」を目指して』（三月刊）、『100歳記念 志村ふくみ——色なき色にすべての色がある』（四月刊）。

おかげさまで、二〇二三年は計一七冊、二〇二四年もほぼ同じペースで刊行を予定しています。



創刊当時のバックナンバーの数々

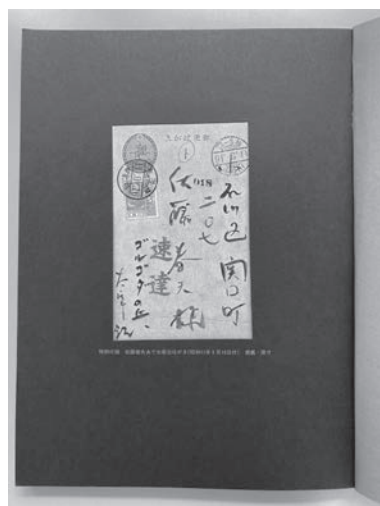
## 創刊当時のラインナップ、「特別付録」のこと。

創刊号は、半世紀以上むかし、一九七二年二月の『百人一首』になります。創刊当時の書目を並べてみます。

『百人一首』（一九七二年二月刊、特別付録 角倉素庵歌仙絵  
「小野小町」ほか）、『戦国百人』（一九七三年三月刊、特別付録  
関ヶ原合戦図屏風ほか）、『源氏物語絵巻五十四帖』（一九七三年六月刊、特別付録 源氏物語色紙「若紫」ほか）、『茶』（一九七三年九月刊、特別付録 千利休現存最古の書状ほか）、『明治維新百人』（一九七三年一月刊、特別付録 吉田松陰筆「留魂録」冒頭ほか）、『琳派百図』 光悦・宗達・光琳・乾山（一九七四年三月刊、特別付録 尾形光琳「燕子花図屏風」ほか）、『棟方志功』（一九七四年六月刊、特別企画 新大作「祢舞多運行連々繪巻」、特別付録 大和し美し板画巻「大和武尊の柵」ほか）、『徳川十五代』（一九七四年九月、特別付録 徳川家康書「百人一首」ほか）、『いろはかるた』（一九七四年一月刊、特別付録 新板いろはたとへ雙六）、『婚礼』（一九七五年三月刊、特別付録 東福門院「入内図屏風」ほか）、『近代文学百人』（一九七五年六月刊、特別付録 佐藤春夫あて太宰治はがきほか）。



『戦国百人』(1973年)の特別付録「関ヶ原合戦図屏風」



『近代文学百人』(1975年)の特別付録  
「佐藤春夫あて太宰治はがき」

大変重厚感があり、とても格調高いです。しかもテーマの柄が大きい。高い水準で“日本文化”を正面から受け止めて、一冊の宇宙にまとめ上げるといふ強い意思が感じられます。これは「百科事典」の出版社の人間に脈々と流れる性<sup>さが</sup>かもしれません。まず「テキスト」から「ヴィジュアル」まで、あらゆる資料の「総体」を細部まで把握して構成を考える。出版事業は不易流行のもので、当然、その時期の「旬」に応じた内容や切り口になりますが、一九七〇年代初頭の時代の勢いというか、一方、“日本文化”というものが日本社会の中に、

「教養」や「娯楽」として、せり出してきた時代を映している感もあります。そこに大判カラー印刷技術とグラフィックのストーリーを贅沢に投入するわけです。創刊から半世紀を経て、日本美術や日本史、日本文学を主軸にして、その「総体」を伝えるという基本姿勢、その大きな道筋は現在も当時とほぼ変わってはいません。

余談ですが、当時は「特別付録」が定番でした。巻末やページの合間には、和紙などに精密印刷した図版が必ず付いていました。「別冊太陽」自身もまた、贅沢な「美術品」たるべき志向性の現れでしょうか。「紙」と「印刷」というものが、至高の「美」であることを信じている雑誌なのです。「関ヶ原合戦図屏風」や松陰の「留魂録」、「太宰のはがき」を丁寧に切り取って、あなたの机の前に掲げてください、ということでもあります。

### シリーズ〈浮世絵〉〈骨董〉から〈子どもの昭和史〉まで

せっかくなのでもう少し、来し方の紹介を続けます。創刊後、「別冊太陽」は、売れ行きがとて良くて、本誌（日本のこころシリーズ）といいますが、とは別に、ジャン

ルごとの〈シリーズ〉ものが、続々と刊行されていきました。一九七〇年中盤から一九九〇年代には、〈浮世絵シリーズ〉〈やきものシリーズ〉〈染と織シリーズ〉〈仏像シリーズ〉〈古典と絵巻シリーズ〉〈庭と家シリーズ〉〈美人画シリーズ〉〈観音の道シリーズ〉〈花の図鑑シリーズ〉〈江戸かわら版シリーズ〉〈城下町散歩シリーズ〉〈骨董シリーズ〉〈子どもの昭和史シリーズ〉などなど。毎年毎年、せっせと出しています。創刊当初よりは、生活文化やサブカル、観光ガイド的な面も出てきた感です。〈子どもの昭和史シリーズ〉は、戦前から手塚漫画、少女漫画まで取り上げて全一四タイトル、貴重な資料となっています。このあたりまで来ると、なんとなく馴染みのある方も多いかもかもしれません。

わたしが平凡社に入社したのは一九九三年で、当時、月刊「太陽」編集部配属されていました。取材中心でいつも飛び回っている月刊誌の編集部と違って、お隣の「別冊太陽」編集部には、そこかしこに大量の資料の山が<sup>うずたか</sup>堆く築かれていました。当時、ブームだった骨董を余すことなく取り上げる〈骨董紀行シリーズ〉（全二一タイトル）、〈骨董をたのしむシリーズ〉（全五六タイトル）が、



〈子どもの昭和史シリーズ〉

これでもか、というくらい量産されている時期でした。古美術の目利きみたいな目の鋭い編集者や渋いおじさんの写真家たちが机に蝸集<sup>いしゅう</sup>し、ライトテーブルの上に大判のポジフィルムを並べて、楽しそうにあれこれ話していたのをよく覚えています。なるほど、美のエッセンスを集め抜いた資料の宝庫は、こういう大人たちが作っているんだな、と深く納得した覚えがあります。

その後、シリーズものでは、二〇〇〇年代に〈生活をたのしむシリーズ〉、二〇一〇年代からは、〈太陽の地図帖シリーズ〉が続き、B5判の判型で廉価なシリーズへも多面展開していきます。近年の〈太陽の地図帖シリーズ〉では、『日出処の天子』『ちびまる子ちゃん』『大奥』『あさきゆめみし』など、名作漫画の文化的背景を深掘りする企画なども進めています。

二〇〇〇年代以降は、日本美術ブームにも乗って、『仏像』『北斎』『若冲』などがとても良く売れました。とりわけ『春画』が大ヒットして、続篇も大いに連発いたしました。土偶から浮世絵、新版画まで、現在も「日本美術」は、大事なメインテーマです。



「太陽の地図帖」名作漫画シリーズ



「日本美術」はメインテーマのひとつ

最近の特集について——『小泉今日子——そして、今日のわたし』。

最後に、最近の「別冊太陽」の宣伝を。

この一年はおかげさまで売れ行きは概ね好調で、『江戸川乱歩』『牧野富太郎』『河合隼雄』『宮沢賢治』『へ太陽の地図帖』大和和紀『あさきゆめみし』と源氏物語の世界』『源氏物語の色と装束』『探偵小説の鬼 横溝正史——謎の骨格にロマンの衣を着せて』などが、ささやかながら版を重ねています。

とりわけ「らしくない」ということで、この冬、世間で話題にしていたいたのは、鈴木理策さん撮影によるインパクトのある表紙の『小泉今日子——そして、今日のわたし』でしょうか。半世紀を超す「別冊太陽」の歴史で、一冊まるまる芸能人を取り上げたことがなかったことは、それはそうなのですが、現在的小泉さんを「アイドル」という人はいないでしょう。内容は、「小泉今日子」をあたかも小泉さんご自身がその人生を詰め込んで、編集したような別格の内容です。もちろん、編集者、デザイナー、写真家が一緒になって、小泉さんとラ

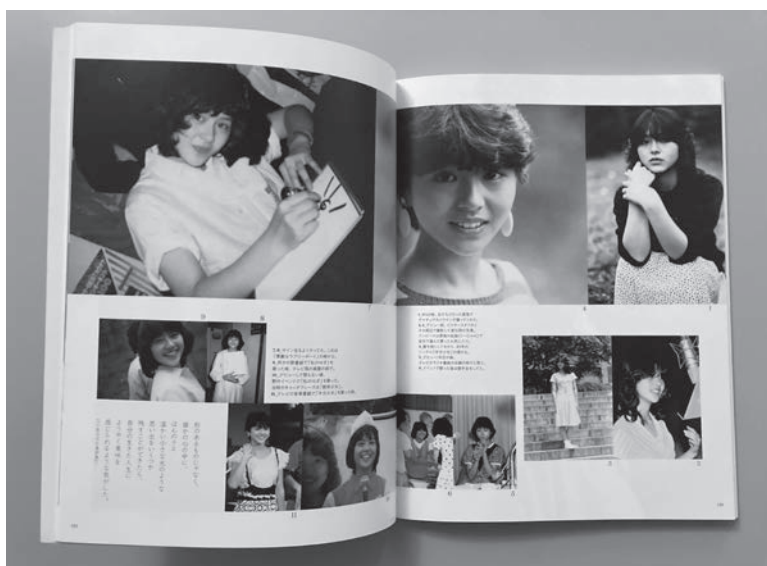
イブで討議を重ねて誌面は作られたのですが、この人以外では誰にもできないことだなと感じたのは、個人史をたどると、そこに日本のポップカルチャーのストーリーが鮮やかに浮かび上がることでした。久世光彦、相米慎二、筒美京平、淀川美代子ら、七〇年代以降、テレビや映画、音楽、雑誌を通して、この四〇年の日本人の感性を形成してきた「本物」との仕事が、臨場感たっぷり語られます。サシで彼らと最高の仕事をされてきた小泉さんだからこそ語れる、あの時代の「文化」です。それから（やっぱり）、幼少期から、アイドル時代まで、ご



『小泉今日子——そして、今日のわたし』  
(2023年)表紙



『小泉今日子——そして、今日のわたし』(2023年)より



『小泉今日子——そして、今日のわたし』(2023年)より

本人のアルバム写真が本当に素晴らしいのです。「よくぞ保存してくれていた!」というものです。七〇年代のカラー写真の色合い、当時の服装や髪形まで、惜しみな

く掲載された写真の細部が、同時代を生きてきたという  
同年代の感慨をかきたてます。



バックナンバーの並ぶ編集部の書棚



『能』(78年冬号)表紙



半世紀以上も続く、この贅沢なシリーズを日々運営している、昔の余裕があった時代の特集を眺めて、うっとりとすることがあります。昔は予算も、時間も、人材も、教養もたっぷりあったなあと、つい、ため息をつくわけです。

その昔、卒論で「狂言役者の身体」という、あやふやなテーマをやってみたと思った時、どこから始めているのか、皆目わからないまま、晩秋の神保町の古書店

で八〇〇円にて購入したのは、別冊太陽『能』(七八年冬号)でした。特別付録の「世阿弥筆禅竹宛書状」(和紙・原寸)は、正直どうでもよかったのですが、分厚い(厚ぼったい)誌面を開くと、構成Ⅱ表章、横道萬里雄の「松風」の解説、渡辺守章、観世寿夫、中上健次、鈴木忠志らの論考が、吉越立雄の圧倒的な舞台写真とともに、目玉に突き刺さってきたのです。「能」というもののヴィジョン(幻影)が一斉に立ち上がってきた感覚でした。それは、後年、この仕事をするようになって、この特集の編集者にヴィジョン(野心)と緻密な設計があったからだと理解することになるのですが、当時、それどころではない無知な学生を不思議とむやみに鼓舞する、救いの一冊だったのです。

長く愛されてきたシリーズの歴史の末端で、毎号の編集作業に溺れながら、あの「能」の特集を古書店で手にした当時の自分を、ふと思ひ起こすことがあります。『能』の刊行は一九七八年なので、刊行から一〇年以上の時間を経てぐって、それは、真に必要なとする切実な読者のところに届いたわけです。

# 2023年秋季グループ訪問報告

## 北陸方面

報告 河内秀憲(筑摩書房)

●期日…2023年10月11日(水)～10月13日(金)

●参加メンバー…福士篤太郎(晶文社)、郡司恵太(誠信書房)、岩野忠昭(白水社)、河内秀憲(筑摩書房)

●訪問先(訪問順)

【富山県】中田図書販売(店売部営業推進課)、BOOKS

なかだ掛尾本店、紀伊國屋書店富山店、文苑堂書店富山  
豊田店、くまざわ書店富山マールト店、文苑堂書店(商

品部書店課)、喜久屋書店高岡店

【石川県】金沢ビーンズ明文堂書店、うつのみや金沢香

林坊店、紀伊國屋書店金沢大和店、明文堂書店TSUT  
AYA金沢野々市店、トーハン北陸支店、石川県立図書

館

【福井県】福井大学生協ブックショップ明日輪、勝木書

●感想  
店(営業本部)、SuperKaBoS二の宮本店

北陸3県への訪問は2016年ぶりとなり、7年間で閉店書店もあれば、あらたに出店された書店もある。主な新規書店を並べてみると……KaBoSイオンモール新小松店、TSUTAYA BOOKSTOREワイプラザ新保店、TSUTAYA BOOKSTOREイオンモール白山、BOOKSなかだ上市パル店、くまざわ書店富山マールト店、TSURUGA BOOKS & COMMONSちえなみき、TSUTAYA BOOKSTORE金沢エムザ——。今回は、くまざわ書店富山マールト店を新規訪問店と位置付けた。また、この数年間のトピックとして「コロナ禍」の影響はもろろん大きい。春先よりう類に引き下げられたが、同エリアでの人流・経済活動はどうなっているのか。人文書群の扱われ方(求められ方)に変化はあったのか。このあたりの意見交換を念頭において臨んだ。最後に当会促進ツ



BOOKSなかだ掛尾本店 澤田健太郎主任店  
長

ル(「高校生のためのブックガイド」(今月の一押し)「ベストセ  
クション」)「人文書販売の手引き第3版」の周知徹底と使い勝  
手の意見交換を主目的に、参加メンバーでの事前打ち合  
わせを経て現地に入る。

初日は中田図書販売・本社へ。今回のグループ訪問で  
は書店店頭だけでなく、本部への訪問も意識的に組み入  
れた。意見交換は店舗に限定されるものではなく、本部  
を含め広く募ってこそこの思いからである。当日は全店長  
会議にもかかわらず、バイヤーの牧野さんが対応下さる。

今夏は暑すぎて各店ともに来店客数が減少、とりわけ新  
刊偏重型のコミック・新書が厳しかった。人文書群では  
「発達障害関連」の需要が強まっている感がある。全国  
紙広告では読売新聞はまだ効くが、朝日・毎日には効かな  
い。購読者割合は北日本新聞が大半を占めている、など  
有益なお話を伺えた。

その後、同社の掛尾本店へ。こちらも澤田主任店長が  
店長会を欠席して対応下さった。しかもエントランスに  
は「歓迎 人文会御一行様」の看板が。常連客が多い店  
舗ゆえ、人文書群の販売ペースは落ちていない。しかし  
高齢者層は減少しているので、新規参入(若年層)を増や  
すことが課題。「高校生のためのブックガイド」は店頭  
フェア含め、大いに活用できそうだと共感した。く。

続いて紀伊國屋書店富山店。久木留店長は7月着任。  
人文書売場が奥まっているので(目的買いの読者が大半)、  
「高校生のためのブックガイド」フェアを積極的に検討  
したいとお話した。く。

文苑堂書店富山豊田店では、奥井副店長と人文書担  
当・岡本さんと有意義な意見交換ができた。「人文書販  
売の手引き第3版」を紹介するや、下記の問題意識を伺

えた。常備導入書店が減り、取次基本図書セットも無くなり、取次システム発注は売行きベスト中心なので専門書群には馴染まない。この条件下で人文書棚の充実をはかるには、スタッフの経験・商品知識に委ねられる部分が大きくなってくる。基本図書一覧をエクセルデータで落とせるようになったのは有難いが、全銘柄在庫できない店舗には選定眼が必要になってくる。入荷商品と入れ替えに棚から抜く作業でも同様だ。ハンディで商品実績を確認するが最終売上日（≠不稼働日数）だけで判断する商品ジャンルでもない。やはり商品知識が肝要だが、人文書に担当を充てられる店舗はそう多くない。基本図書一覧に、リンク付与してくれるだけで書店は管理し易くなる。自店の棚段数に応じてフィルタをかけることもでき、システムに商品登録することで未入荷商品のチェック、返品対象外の手掛かりにもなる。当会に持ち帰り各社で議論を深めたい。

初日最後は2022年3月出店のくまざわ書店富山マールト店へ。富山駅前の新しい商業施設MAROOTの4階。高島店長は本年5月に着任。県内トップの富山中部高校が近隣にあるため、学参・コミックが非常に強

い。ここでも「高校生のためのブックガイド」への関心が非常に高かった。人文書売場は壁面に位置し、【哲学思想】【歴史】【宗教】【心理】がそれぞれ1本づつ。文苑堂書店同様、基本図書一覧にリンク付与されていると有難いとのことだった。現在業界では人文書のリンク付き基本図書リストが存在しないため、かような相談が寄せられるのだと思う。以前は常備版元も多く、取次基本図書も機能していたが、その代わりを求められている。当会として取り組む価値のある案件だと感じた。

2日目は文苑堂書店商品部から。室バイヤーからは富山豊田店同様の問題意識と、先日同社の方針発表会で「本を諦めない」をテーマに掲げたと頼もしいお言葉も聞けた。

続いて喜久屋書店高岡店。人文書棚は多くないが、店内中央通路のワゴン展開でその時々テーマを仕掛ける工夫を凝らされている旨、中村店長から伺えた。

高岡から金沢に移り、金沢ビーンズ明文堂書店では人文書担当の藤さんと意見交換。コロナ禍があげて、金沢では他の消費活動に目が向いており来店客数が減少して

いる店舗が多い。加えて書籍の値段高騰に多少の悪影響（複数冊購入する読者が減少）を感じる。基本図書一覧のエクセルデータはぜひ活用したい、と述べられる。

うつのみや金沢香林坊店では、大井店長・垣ノ内副店長・人文書担当の大田氏と情報交換。大田氏は百番街店店長はじめ取締役も歴任、同社を長年支えてこられた確かな知見によるきめ細かい棚づくりが目を引く。11社共同企画〈四六判宣言〉フェアが展開されていたが、相当数購入されているのも頷ける。

国道を挟んで向かいの紀伊國屋書店金沢大和店は老舗百貨店内店舗。人文書群より美術書の需要が圧倒的にあるようだ。今夏の暑さで減少していた来店客数は、10月に入り回復基調にあると人文書担当の川向氏。

同日最後は、明文堂書店TSUTAYA金沢野々市店。人文書担当の瀬戸氏公休のため、木村店長が対応下さる。当会促進ツールはどれも活用している。「高校生のためのブックガイド」は子どもたちが将来どういう職業につきたいか、どういう大人になりたいか、というテーマはどうかと提案下さる。

最終日、トーハン北陸支店へ。始業直後にもかかわらず川本支店長、曾我アシスタントマネージャーが応対下さり、取次からみた同地区の現状を伺う。コロナが明けてから百貨店・SC内店舗は好調だが郊外店は厳しい。その背景もあり特にコミックの落ち込みが大きい。人文書群は店舗が限られるが、トーハンとしても提案していきたいのでこういった促進ツールは助かる。ぜひ継続して送って欲しい。店舗側では見落としているケースもあるので、トーハンからもプッシュしたい。気になる点として、通常は返品了解が必要な版元をどう案内したらよいか。事前に了解者名を共有できると書店も安心して申し込める。特に「高校生のためのブックガイド」は案内したい。「人文書販売の手引き第3版」も活用できそうだが、各分野の棚構成比（例えば【哲学思想】…【歴史】…【宗教】…【心理】…2・4・3・1）まで示してもらえると有難い。医学看護系版元は明示しているところが多い。ぜひ人文会でも、とアドバイスいただく。

続いて、2022年4月に移転開館した石川県立図書館。「人文会ニュース144号」に寄稿下さった河合さんはご不在で、お話を伺うことができなかったが、聞

きしに勝る盛況ぶりに圧倒された。人文会ニュースでも言及されていた「企画展示」を実際に拝見し、その背景にある準備などのご苦労には頭が下がる。どの来館者も目を輝かせており月並みだが本が持つ魅力をあらためて実感した。

福井県へ移動、福井大学生協ブックショップ明日輪へ。出野店長は富山大学生協から異動されてきた。理系大学ゆえ人文書群の動きは鈍い。いまの学生の特色として、TOEIC・資格書はじめ就活を意識した書籍が一番購入される。売れ筋文芸書や文庫(新文芸含む)を購入してくれるのはいいほうで、新書でさえ手に取られづらい。何とか興味対象の幅を広げるべく模索している、と話される。

続いて勝木書店本部。海東部長から「人文書販売の手引き第3版」の電子化に伴って、キーワード検索を実装して欲しいとのリクエストをいただく。内容紹介の文面もタグ付してくれば書名からだけでなくヒットさせることができる。人文書こそテーマで見せていくものだ。(だが商品知識の面で)現場が一番苦慮している分野かもしれない。上位店舗では人文書もしっかり棚づくりしてい

きたいので、手引きを大いに活用したいと述べて下さる。最後はSuperKaboS二の宮本店。人文書に限らず専門書群には、中分類・小分類の棚プレートが付けれられ、読者に分かり易いよう配慮されている。ロングセラー商品が欠本していく問題点は(システム発注だけだと重版中商品は未入荷になってしまう)、マニュアルで解決できる店舗と人員を割けない店舗で明暗が分かれる。「人文書販売の手引き第3版」活用のしどころと評価いただく。

いざ訪問を始めるとあっという間の3日間であった。同じテーマ・問題意識を持ち、他社ではあるが志を同じくする会員社とともに同行するのは新鮮で、学ぶところが多かった。なによりご対応下さった書店・取次の皆様に心より御礼申し上げたい。お忙しい中、本当に有難うございました。

## 京都・愛知方面

報告 段塚省吾(紀伊國屋書店)

●期日…2023年11月13日(月)～11月15日(水)

●参加メンバー…佐藤信治(大月書店)、東原亮佑(勤草書房)、澤畑壘(東京大学出版会)、段塚省吾(紀伊國屋書店)

●訪問先(訪問順)

【京都】同志社生協書籍部今出川店、京都大学生協ショップルネ、丸善京都本店、大垣書店京都本店、大垣書店イオンモールKYOTO店、大垣書店外商部、立命館生協ブックセンターふらっと

【愛知】三省堂書店名古屋本店、ジュンク堂書店名古屋店、トーハン名古屋支店、丸善名古屋本店、ジュンク堂書店名古屋栄店、名古屋大学生協南部生協プラザ、紀伊國屋書店南山大学ブックセンター

●感想

今回の訪問先である京都・愛知エリアは、訪問研修を再開した前回2022年にも【京都・兵庫方面】、および、【愛知・静岡方面】の編成でそれぞれ訪問しており、どちらも最重要エリアとの位置づけで今回も訪問地と決

まった。前回から約1年が経過し、市況の変化、書店状況の変化を再確認することを主な目的とし、また、人文会販促ツールのうち、2023年に第3版をリリースした「人文書販売の手引き」の普及に力を入れ、利用の働きかけや評価の意見交換などを念頭に置いて2泊3日で臨むこととした。11月に入っても暖かい日が続く関東地方であったが、出発の日の朝は秋を飛び越えたかのような冷えこみとなり、急遽コートをかかえてのスタートとなった。

初日、京都に到着して最初に訪問したのは同志社生協書籍部今出川店。地下鉄今出川駅との直結になって丁度10年。駅改札から多くの学生が連なって入館していく情景はアフターコロナを目の当たりにしたようだった。人文書の棚は基本書が揃いフェア展開も積極的でバランスが良い印象。人文担当の竹内さんの変わらぬ意識の高さが窺えた。「とにかく学生に店内で過ごす時間を増やしてほしい」と熱く語っておられた。応援したい。

次に向かったのは京都大学生協ショップルネ。地元の方も利用されるとのことでコミックや、やわらかめの雑

誌も置いてあるが、やはり専門書の品揃えは圧巻で、人文書だけでなく、法律、経済など社会科学の棚も充実、迫力を感じた。一方でテーマフェアもあちこちの棚で展開されており、多様なニーズに応えようとされる売場の力強さが印象深かった。

昼食をはさんで河原町の丸善京都本店へ。河原町通りは月曜の午後ながら内外からの観光客が多く見られ活気の戻りを感じることに。京都最大級の売場面積の店内にはお客様も多く、拡材を駆使したフェアコーナーや話題書コーナーの展開はよく目立つ。長年人文を担当されている杉山さんにご挨拶、この1年の状況をお聞きした。客足やインバウンド需要は回復基調が顕著で洋書やアート書の売上が特徴的にアップしているとのこと。橋本店長からは、丸善京都本店は人文書が売れる貴重なお店。若い読者が多く、土地柄や特長を活かしていきたいとお話いただいた。

続いて徒歩で四条室町の京都経済センター1階にある大垣書店京都本店へ。多くの人で混雑するなか、人文担当の佐久間さんに応対いただいた。もともと外国人観光客が多く訪れるエリアとのことだが、コロナ禍の間は店

内は寂しく売上も厳しかったそう。ここにきて、コロナ規制の緩和と円安の影響で外国人観光客は欧米を中心に一気に増えたとのこと。写真集や美術技法書などがよく手に取られている。

初日の最後は、京都駅八条口近くの大垣書店イオンモールKYOTO店を訪問。ショッピングモールの別館にあり、総合的な品揃えと豊富な在庫量でファミリー層や駅利用者のニーズに応えている。人文書では教育書や心理書が強いとのこと。人文書担当の荻野さん、平川さんが応対くださり『人文書販売の手引き第3版』を参考にして棚と格闘しています」とうれしいお言葉。「京都で専門書を大きく扱う書店としての役割を果たしたい」との力強いコメントもいただいた。ショッピングモールでの人文書の販売の仕方は、今後も会として意識していく必要のある課題の一つと気づかされた。初日の夜は、大学生協の担当者をお招きして懇親会を行った。

2日目、最初は、北大路駅近くの大垣書店外商部を訪問。会としての訪問は2018年秋の全体訪問以来と

なる。大垣全央社長にもご同席いただき、辻上外商部長、大石課長に営業体制と現況を伺った。主な営業先は大学と官公庁、企業や高校とも取引がある。会で製作している「高校生のためのブックガイド」は以前から活用いただいているとのこと御礼申し上げた。外商市場もコロナの影響は大きかったそうで、この間の大学の予算事情や、教科書販売事情、求められる情報媒体の変化など、様々な状況を伺い意見交換した。

続いて立命館生協ブックセンターふらつとを訪問。秋季の教科書シーズンが終了し、返品作業と棚の整理で忙しいなか、篠原店長が応対くださった。教科書売上は前年並みだったそうだが売上全体としては依然コロナの影響を受けており教員が生協に求めていることを改めて見直しているところ。

昼食の後、京都駅に戻り新幹線で名古屋へ移動。名古屋のスタートは駅ビルの三省堂書店名古屋本店から。神保町本店が建替え中のため、三省堂書店のなかでは最大規模の店舗となる。人文書はフルジャンル構成で、質、量ともに充実。人文会は2021年から幾度も大規模な人文書フェアを開催してもらっているが、毎回好成绩

となっている。人文担当の大屋さんに日頃の御礼を申し上げ、最近の状況をお話いただいた。客足は戻りお店全体の売上は回復しているそうだが人文書は各元棚の手入れが十分とは言えず強化が必要と認識されていた。この話がきっかけで棚前に移っての実践的な意見交換も行うことができた。

続いて同じ名駅地区のジュンク堂書店名古屋店を訪問、人文担当の岡田さんが応対くださった。一昨年のリニューアルで棚数を減らした分、エンド台のミニフェアや、重点商品集中販売を増やすことで量感を出しカバーしている。岡田さんは人文担当2年目とのことだが探求心が旺盛で棚のなかでの並べ方や関連書の組み合わせを色々とトライされていた。

最終3日目は、まず、トーハン名古屋支店を訪問。始業直後の慌ただしい時間帯だったにもかかわらず、藤本アシスタントマネジャー、鈴木アシスタントマネジャーのお二人が快く応対くださり、同地区の状況を伺う。大きなニュースとしては、どちらも名古屋の書店の「顔」的存在だった、正文館書店、ちくさ正文館書店本店の閉

店。単店単位で見ると、前年増や横ばいの店舗、微減にとどまる店舗が徐々に見られるようになってきたものの、エリア全体の売上はコロナ前と比べるとまだまだ厳しいとのことだった。「人文書販売の手引き第3版」は是非支店で共有したいとのこと評価をいただき、各書店担当者へご案内いただくこととなった。

栄地区に移動し丸善名古屋本店を訪問。長く人文を担当されている佐藤さんにお話を伺った。お店全体の客数売上はともに落ち着いた動きとのことで名古屋最大級の人文書の棚は引き続き健在で頼もしい。別のジャンルも受け持っておられるため人文棚に費やす時間のバランス管理が大変そうだった。日々のご努力で売場を維持されているのには頭が下がる思い。

続いてジュンク堂書店名古屋栄店に向かう。人文書の棚はコンパクトにまとまっており、教育書、心理書が多数。売れ筋、定番品はしっかりと在庫されている印象。応対いただいた大竹店長のお話では店全体の売上も健闘しているようで人文書の売行も堅調とのこと。

地下鉄で移動し名古屋大学生協南部生協プラザを訪問。書籍担当の安藤さんにお話を伺う。コロナ禍が明けて一部のリモート授業以外ほぼ全て対面授業に戻っているが、教科書や先生方の公費購入などには引き続き影響が出ている。今後は、様子を見ながら出版社フェアも再検討していきたいとのことだった。

最後に、紀伊國屋書店南山大学ブックセンターを訪問。紀伊國屋書店の大学ブックセンターの中でも売上規模の

別冊太陽 日本のこころ 315

## 日本初の女性裁判所長 三淵嘉子

### 「愛の裁判所」を目指して

2024年春のNHK朝ドラ『虎に翼』のヒロインのモデルは、日本初の女性裁判所長・三淵嘉子（1914-84）。戦後、家庭裁判所判事として5000人の少年少女と向き合い、社会の矛盾や不平等と闘った、その果敢な生涯をたどる。

別冊太陽編集部 編

●定価1980円



平凡社

〒101-0051 [税込]  
東京都千代田区神田神保町3-29  
TEL03-3230-6573 / FAX03-3230-6587  
<https://www.heibonsha.co.jp/>

## 群馬・新潟方面

報告 片桐幹夫(みずず書房)

●期間…2023年11月22日(水)～24日(金)

●参加メンバー…片桐幹夫(みずず書房)、片山伸治(吉川弘文館)、乙子智(慶應義塾大学出版会)、本橋弘行(ミネルヴァ書房)

●訪問先(訪問順)

くまざわ書店高崎店、戸田書店高崎店、紀伊國屋書店前橋店、ブックマンズアカデミー前橋店、群馬県立図書館、戸田書店長岡店、五尊文庫(ミライエ長岡)、ジュンク堂書店新潟店、新潟大学生協書籍部、紀伊國屋書店新潟店、萬松堂古町本店、北書店

●感想

群馬・新潟訪問は人文会としては2014年以来となる。旧知の担当者様や棚に再会するのが楽しみだった。高崎駅に下車してまず訪問したのは、駅ターミナルビル内のくまざわ書店高崎店。朝10時、最も忙しい時間だったが、斎藤店長に丁寧にご対応いただく。客層は通勤客、

大きい店舗の一つ。鹿島店長にご対応いただいた。先生方や図書館などの外商は小松さんが担当、ブックセンタ―は鹿島店長が専任、2名で相互に連携しながら対応している。教科書の売上は2023年は好調だったとのこと。棚の品揃えについて教科書以外の学生の要望を掴むのが難しく苦労しているそうで、今回、会員社が毎月1点ずつ選書して品揃えの参考として提案する販促ツール「人文会★自信のオススメ」をお勧めした(その後、活用いただけることになった)。

以上が、今回の京都・愛知班の訪問記録である。行程の関係で駅ターミナルや商業圏への訪問が多く、郊外地のお店や個性派のお店へ行けなかったのは少し残念だった。京都ではインバウンド需要が急速に回復していることを実感し、名古屋でも徐々に回復していることが見て取れた。私自身、初めて何う店舗、初めてお会いする担当者の方々も多く、お忙しいなか、時間を割いて対応してくださった皆さまには心より感謝申し上げます。有意義だった3日間を今後の会活動に繋げていきたいと思えます。

近郊の高層マンション居住者、定年退職後の方々などが中心。人文書を売りたいという熱意を強く感じた。その後レンタカーで高崎駅から15分ほど北上、戸田書店高崎店を訪問。人文担当の飯野さんはビジネス書も兼務しており、人文書のテコ入れはこれからとのこと。今後の棚充実に期待。前橋方面に車で20分、けやきウォーク前橋内にある紀伊國屋書店前橋店に伺う。平日の午前中だが駐車場が8割程度埋まっており、強い集客力を感じる。壁棚以外は5段の見通しの良い棚、人文書棚は各ジャンル5〜11本。フェア棚も多く、時節に合った提案が沢山展開されている。広瀬店長、各ジャンルの担当者様と密に連絡を取ることによって更に魅力ある人文書の棚ができると感じた。利根川を越えて15分ほど走り、ブックマゾンアカデミー前橋店に伺う。店舗の入口に人文書新刊コーナーがある。2階の人文書は縮小と聞いていたが、規模・書目とも充実した棚。日々、大竹店長の手が入っていることを感じる。この棚の存在を近隣の読者に伝える方法を考えようと思った。

再度、利根川を越え、沿道の美しい楽歩堂前橋公園と臨江閣に眼を奪われつつ約10分、群馬県立図書館に伺う。

市村さん、山崎さんにご案内いただく。県立図書館という位置づけ上、市立図書館などが集められない専門書を積極的に集め、除籍しない姿勢を貫いている、貴重な図書館だった。スペースが課題で蔵書の保管に苦勞しているが、閉架施設に棚プレートを付けて一部開架するなど、様々な工夫を凝らしていた。特別館長の岩瀬さんから群馬出身の傑出した人物（渋沢栄一、中島飛行機の創設者・中島知久平、煥平堂の創業者・高橋常蔵など）の興味深い逸話をうかがう。この日の研修はここで終了、宿泊地・猿ヶ京温泉に向かった。

2日目は早めに出発、130km先の長岡に向かう。戸田書店長岡店に伺い、石井店長と人文担当・松田さんにお会いする。幹線道路に至近の大型郊外店で、天井が高く開放感がある。人文書棚は大きくはないが担当の松田さんの手が細かく入っているのを感じた。まもなく店舗の裏側にホームセンターが開店とのこと、集客増が期待される。長岡駅から徒歩6分、駅前商店街に位置する米百俵ブレイスミライエ長岡内の互尊文庫（図書館）に伺い、統括責任者の丸濱さんにご案内いただく。昨年7月にオープン、今まで図書館に来なかった人を呼び込むと

いうコンセプトの通り、多くの学生・社会人で混雑していた。特筆すべきは、NDC分類ではなく、ブックディレクターの幅允孝さんと共に作成した独自分類で展示していること。「からだところ」[世界の多様性]といった大ジャンルのもと身近なテーマを提案し、入門書から専門書へと誘う。書店店頭フェアのようで、つい手が伸びてしまう。

新潟市方面に30kmほど北上、彌彦神社へ向かう。参道の巨大な大鳥居に一同驚愕。メンバーの乙子さん(慶應義塾大学出版会)のルーツかもしれない乙子神社(彌彦神社の摂社)に参拝。七五三シーズンで沿道は大渋滞、地域の人々の崇敬の念を感じた。

最後の訪問地、新潟市に向かう。ジュンク堂書店新潟店は新潟駅から徒歩3分の駅前店だが、駅改修工事でアクセスがやや悪くなっていた(今春に工事完了)。店長の石井さん、人文担当の石田さんに案内していただく。昨年3月に地下一階に駿河屋がオープン。人文書は縮小と聞いていたが、充実した品揃えと棚管理は県内随一だろう。人文書は昨対比で苦戦とのことだが、新潟大学との共同フェアなど積極的にフェアを開催、担当者のやる気を感じた。

じる。版元も協力して、人文棚、売上とも維持したいと感じた。

最終日、朝一番で新潟大学生協書籍部を訪問。書籍担当の齋藤さんはコロナ以後、学生のライフスタイルが大きく変化したと語る。「タイパ」を重視して、以前なら空き時間に食堂や生協に立ち寄っていた学生が校外に出てしまうとのこと。登校する学生に逆流するように大学を後にし、紀伊國屋書店新潟店へ。長谷川店長と人文書担当の片浜さんにご対応いただく。同店は、新潟駅と古町(ふるまち。中心街)の間に広がる商業地域のファッションビル6階にある。来店数は天候に大きく左右されることが。人文書棚は広くフェアコーナーも充実。その後、古町の萬松堂本店を訪問。中山店長にご対応いただく。2階の専門書コーナーはコミック売り場にリニューアル。1階の新刊コーナーに人文書の新刊を展開。外商は好調で新潟県全域を回っている。古町は老舗の閉店が続いているが、若者が経営する新しい店もできている。旧中心街が息を吹き返すことを祈りたい。市役所そばから万代橋近くに移転した北書店に伺う。佐藤店長は2010年、地元の老舗書店・北光社が1月に閉店した後、4月

に北書店を開業。独立系書店の先駆的存在である。病  
気の後遺症を抱えながらも精力的にイベントを開催して  
いる。

この北書店を最後に我が班の研修行程は終了。約9年  
ぶりの群馬・新潟は、町も書店事情も大きく変化してい  
た。書店は売上減少に伴いスタツフも減少、担当ジャン  
ルが増えている。人文書棚は大半の店で縮小傾向にある。  
その中でも丁寧に棚を作り、人文書をお客様に届けよう  
と日々、奮闘している書店人に沢山出会えたことが大き  
な収穫だった。図書館も様々な課題を抱えながら新しい  
読者サービスを模索していた。これらの方々と共に人文  
会は何ができるのか、考えるベースを与えていただいた。  
書店・図書館の皆様、お忙しいなか時間を作っていただ  
き、本当にありがとうございます。それから間もな  
い2024年元旦、能登半島震災の報に接し、言葉を  
失いました。被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げ、  
一日も早い復興をお祈り致します。

## 大阪・兵庫方面

報告 水口大介(創元社)

● 期日…2023年11月29日(水)～12月1日(金)

● 参加メンバー…吉岡聡(春秋社)、水口大介(創元社)、栗生  
圭子(平凡社)、三木拓(法政大学出版局)

● 訪問先(訪問順)

紀伊國屋書店梅田本店、MARUZEN&ジュンク堂書  
店梅田店、紀伊國屋書店グランフロント大阪店、ジュン  
ク堂書店大阪本店、紀伊國屋書店関西営業本部、関西大  
学生協書籍店、楽天ブックスネットワーク関西流通セ  
ンター、ジュンク堂書店三宮店、ジュンク堂書店三宮駅  
前店、ジュンク堂書店天満橋店、隆祥館書店、ジュンク  
堂書店近鉄あべのハルカス店、ジュンク堂書店難波店、  
toibook's

● 感想

大阪は昨年が続いて2年連続の訪問で大半の書店に昨  
年もうかがっておりこの1年の変化について話を聞くこ  
とができた。兵庫は三宮だけの訪問となった。昨今の出

版業界の動向を体感できた3日間だった。

初日は梅田界限の書店を訪問した。まずは紀伊國屋書店梅田本店。昨年に続き長谷川店長と百々部長代理に対応していただいた。この3日間をとおしてほぼすべての店舗で『大阪の生活史』(筑摩書房)の話聞くことになるが、それはここから始まった。明日入荷ということだったが新刊台やメイン動線の平台各所を使って大々的に販売をするのでこの本への熱い気持ちが伝わってきた。昨年訪問時には客入りはコロナ前の8割くらいとのことだったがそこから1年たって9割ということまでまだ戻り切っていないようだ。それでもお店は活気にあふれていた。

続いてMARUZEN&ジュンク堂書店梅田店へ。リニューアル中のお忙しいところを福島さん、岡さんにお話を聞く。今回のリニューアルで人文書と社会科学書が同じフロアでまとまったがこれは同チェーンの中では珍しいとのこと。他のフロアでもリニューアルの結果、棚が見やすくなったかしていた。紀伊國屋書店グランフロント大阪店では人文書を担当している菅崎さん、齋藤さん、牛窪さんの3名にご対応いただいた。グランフロン

トそのもののお客さんは増えているが上階まで上がってくるお客さんはまだ回復していない。フロアの奥にあるスターバックスへつながる通路に面した場所でフェアや売行き良好書などを展開してお客さんへアピールしているとのこと。初日の最後はジュンク堂書店大阪本店へ。郷土本コーナーは変わらず充実していた。かご一杯に書籍を入れたお客さんが多数見受けられ熱心なお客さんに支えられていることがわかる。

2日目は紀伊國屋書店関西営業本部からスタート。早朝にもかかわらず大阪第一営業部友田部長、大阪第二営業部西田部長の両部長にご対応いただいた。今年度の大学市場の状況や電子図書館・電子テキストの導入状況などをお聞かせいただき、またジャンル別カタログの活用や読書啓発イベントなどについてもご意見をいただき貴重な情報交換の機会となった。続いて関西大学生協書籍店。こちらも昨年に引き続きの訪問。山本店長に対応いただく。昨年実施した法政大学出版局のフェアも好成績で、現在実施中の日本評論社のフェアも好調。訪問した日は『就職四季報』(東洋経済新報社)の発売日で学生からの需要は当然高く、目立つ場所で陳列されていた。す

でに発表が終わっている総合型選抜合格者向けの入学前課題テキストが販売されているのが興味深かった。

お昼を挟んで楽天ブックスネットワーク関西流通センターを訪問。商品管理部の松本部長、森マネージャーと東京からMD推進・事業開発部の荒井部長、神田マネージャー、途中から梅本取締役にも参加いただき見学会を実施。ネット書店対応に注力している同社の動向は非常に気になるところで、その現場を見ることができる貴重な機会となった。フリーロケーションの倉庫では入庫・出庫の最適化が図られ日々調整が続けられているとのこと。見学終了後に梅本取締役から今後のビジョンや短期目標などをお聞きすることができた。人文会側からも質問が相次ぎ活発な意見交換の場となった。続いてジュンク堂書店三宮店へ向かい、田川副店長にお話を聞く。充実した品ぞろえは変わらないがその中で売りたい本をどうお客さんへアピールするか選書・陳列などに気を配っていることが感じられた。最後はジュンク堂書店三宮駅前店。18時過ぎという遅い時間だったが大寺店長と田邊さんにご対応いただけた。この日は月末で入居しているテナントのポイントアップとそれに合わせてhonto

ポイントもアップということでレジはフル稼働でお客さんは途切れることなく続いていた。レジへ来るお客さんは何らかのポイントも持っていてポイントアップに合わせたの来店が多いそう。売上はまずまず順調とのこと。

最終日。まずジュンク堂書店天満橋店へ。宮永店長と能美さんにお話を聞く。今年で開店25周年を迎えた。以前はビジネス客が多い店だったが最近はファミリー層にシフトしている。売上は苦戦しているが客層に合わせた店づくりへ転換中。続いて隆祥館書店を訪問。二村知子社長にお話を聞く。業界内外で有名な書店だが、いつ来てもその在庫量と二村社長の熱意に圧倒される。13坪の店内には読んでほしいと訴えかけてくる本が所せましと並んでいる。今回の訪問時も入口で「隆祥館書店ノンフィクション大賞」を実施中。自店で売れた本とその著者が選んだ本で構成された棚は圧巻。いろいろと意見交換する中で現状の厳しさも聞くがこういったお店とそれを支えている読者の役に立つ存在でありたいと思う。

午後は、ジュンク堂書店近鉄あべのハルカス店へ。前田さん、増田さんに対応いただく。お昼時だがレジは途切れることなく動いている。クリスマスも近くなりラッ



ジュンク堂書店近鉄あべのハルカス店の『大阪の生活史』陳列の様子

ピングサービスも増えてきたそう。百貨店内のお店だがジュンク堂書店を目的に来る人も多くその人たちの期待に応えられるサービス・品ぞろえを心掛けているとのこと。続いてジュンク堂書店難波店。日野さん、岩崎さ

ん、玄幡さんの3人と話す。今年に入ってもなかなか客数は戻らず苦戦している。売上と在庫のバランスに苦慮している面がうかがえる。最後はtoibooks。店主の磯上さんにお話を聞く。開店して5年。文芸書を中心に新刊・古本を扱っている。開店時より新刊の占有が増えた。入居しているビルにイベントスペースがあり、そこを活用してイベントを開催している。著者との関係が近くイベントやサイン本販売などができている。大手取次との取引は無いので複数の問屋や出版社との直取引など様々なルートで商品を調達している。小さなお店だが選書・陳列に工夫を凝らして選ぶ楽しさを感じられる。

今回は「大型書店」「大学生協」「物流倉庫」「街の書店」「個人経営書店」と様々な場所を訪問した。それぞれの場所ですれぞれが抱える問題に対処して1冊でも多くの本を読者に届けるべく努力を重ねていた。我々出版社もより一層読者へ「情報」と「物」を届ける努力をしなればと気を引き締める3日間だった。

お忙しい中丁寧にご対応いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。

# 人文会会員名簿

〒113-0033 文京区本郷2-20-7 みすず書房内

2024年4月現在

社 名	担当者	〒	住 所	電 話	FAX
大 月 書 店	佐藤 信治	113-0033	文京区本郷2-27-16 2F	3813-4651	3813-4656
紀伊國屋書店	段塚 省吾	153-8504	目黒区下目黒3-7-10	6910-0519	6420-1354
慶應義塾大学出版会	乙子 智	108-0073	港区三田2-17-31	3451-6926	3451-3124
勁 草 書 房	束原 亮佑	112-0005	文京区水道2-1-1	3814-6861	3814-6854
春 秋 社	吉岡 聡	101-0021	千代田区外神田2-18-6	3255-9611	3253-1384
晶 文 社	福土篤太郎	101-0051	千代田区神田神保町1-11	3518-4940	3518-4944
誠 信 書 房	郡司 恵太	112-0012	文京区大塚3-20-6	3946-5666	3945-8880
青 土 社	森 卓巳	101-0064	千代田区神田猿楽町2-1-1 浅田ビル1F	3294-7829	3294-8035
創 元 社	水口 大介	101-0051	千代田区神田神保町1-2 田辺ビル	6811-0662	3219-7800
筑 摩 書 房	河内 秀憲	111-8755	台東区蔵前2-5-3	5687-2680	5687-2685
東京大学出版会	澤畑 壘	153-0041	目黒区駒場4-5-29	6407-1069	6407-1991
日本評論社(休会中)		170-8474	豊島区南大塚3-12-4	3987-8621	3987-8590
白 水 社	岩野 忠昭	101-0052	千代田区神田小川町3-24	3291-7811	3291-8448
平 凡 社	栗生 圭子	101-0051	千代田区神田神保町3-29	3230-6572	3230-6587
法政大学出版局	三木 拓	102-0073	千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎1F	5214-5540	5214-5542
みすず書房	片桐 幹夫	113-0033	文京区本郷2-20-7	3814-0131	3818-6435
ミネルヴァ書房	本橋 弘行	101-0062	千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング2F	3525-8460	3525-8461
吉 川 弘 文 館	片山 伸治	113-0033	文京区本郷7-2-8	3813-9151	3812-3544

代表幹事	片桐幹夫
会計幹事	片山伸治
書記幹事	水口大介
	《◎委員長(幹事) ○副委員長》
販売・企画委員会	◎吉岡 聡 ○段塚省吾・佐藤信治・福土篤太郎・郡司恵太・栗生圭子
調査・研修委員会	◎森 卓巳 ○澤畑 壘・束原亮佑・河内秀憲
広報委員会	◎岩野忠昭 ○乙子 智・三木 拓・本橋弘行

人文会ホームページ <http://www.jinbunkai.com/>  
(各種情報／各社へのリンクはこちらからどうぞ)

日本の近代思想を  
読みなおす

# 1 哲学

中島隆博

時代を反映する重要テキストを精選・  
収録し、近代日本哲学のダイナミズム  
を明らかにする。 4,620円(税込)

## 東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991  
<https://www.utp.or.jp/>

## 創元社

◆好評「イラスト授業シリーズ」◆

政治の必要性や時事問題まで解説。  
池上英洋【監修】岡本由香子【訳】  
素材や道具、技法や美術の歴史も解説。  
ひと目でわかる  
アートのしくみと  
はたらき図鑑

A4判変型・上製  
224頁・4,400円

吉田徹【監修】豊島実和【訳】  
ひと目でわかる  
政治のしくみと  
はたらき図鑑

A4判変型・上製  
224頁・3,960円

大阪市中央区淡路町4-3-6〈税込〉  
TEL06-6231-9010 Fax06-6233-3111  
千代田区神田神保町1-2 TEL03-6811-0662

フランスのコードが語る  
家族との葛藤と愛



## 手はポケットのなか

コードとして生きること

ヴェロニック・ブーラン 志村 響 訳

ろう者の親のもとに生まれた「コード」が、  
親子のあいだの葛藤や愛を強烈なユーモ  
アとともに描く自伝的エッセイ。

解説・安東明珠花

●2,420円

白水社

東京都千代田区神田小川町3-24  
tel.03-3291-7811 ●価格税込

新版

## 思考の整理学

外山滋比古

287万部突破のロング&ベストセラー  
はじめての増補改訂

「東大・京大で1番読まれた本」で知られる、  
40年以上読み継がれる知のバイブル。  
▼「東大特別講義」を初収録  
▼文字が大きくなりました

ちくま文庫 定価693円 ※電子書籍も配信中

筑摩書房

営業部 03-5687-2680

\*定価は10%税込です。

<https://www.chikumashobo.co.jp/>

＝ 関連書 ＝

『大人』になる君へ \* 四六判 1760円 \* 4刷  
中高中生のための哲学入門  
小川仁志著 哲学者が教える大人になるヒント。

NHK Eテレの人気相談番組が書籍に  
『ロッチと子羊』で学ぶ  
中高中生のための哲学入門  
君のお悩み、哲学プラクティスで解決します。  
小川仁志 / 『ロッチと子羊』NHK制作班著  
\* A5判美装カバー 128頁 1760円

### ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1  
TEL075-581-0296 価格税込 / 宅配可

## 法政大学出版局

<https://www.h-up.com/>

# ベルナルル・スティグレルの哲学

人新世の  
技術論

李舜志 著

『技術と時間』などの著作で知られる哲学者のエッセンスを紹介する初の入門書。資本主義と環境危機に立ち向かう「人新世の技術論」。

2420円

## パレスチナ戦争

入植者植民地主義と抵抗の百年史

ラシード・ハーリディー 著

鈴木啓之、山本健介、金城美幸 訳

膨大なインタビューと確かな知識に裏打ちされた歴史叙述に家族史を織り交ぜ、強大な権力に翻弄されてきた民族の一世紀を描き出す。

3960円

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3  
☎ 03 (5214) 5540 / 表示価格は税込です

## 夜更かしの社会史

近森高明 右田裕規編 安眠と不眠の日本近現代 4180円  
夜なべ・盛り場・睡眠学習：私たちは眠りに何を求めているのか。  
眠る／眠らないことを同時に要請する産業社会の特性を追究。

## 日中和平工作

1937-1941

戸部良一著 実現をめざした外交官・軍人・民間人の考えや行動を追跡。泥沼化する軍事紛争の知られざる側面を解明。2970円

## 文書館のしごと

史料保存  
アーキビストと

新井浩文著 地域史料の保存・公開などの仕事を解説し、現場の視点から今後の文書館のあるべき姿や展望を提示する。2200円

吉川弘文館 東京都文京区本郷 7-2  
☎ 03-3813-9151 税込

## 真実と修復

暴力被害者にとつての  
謝罪・補償・再発防止策

ハーマン 暴力被害者は何を求めているか。その具体策は。『心的外傷と回復』を継ぐ総決算の書。阿部大樹訳 3500円

## ゲノム裁判

ヒト遺伝子は誰のものか

コントレラス 合衆国最高裁での「遺伝子特許」をめぐる事件を扱った、白熱のドキュメンタリー。上原直子訳 2800円

## 21世紀の戦争と政治

戦場から理論へ

シンブソン 戦争が政治の直接の手段となっている。戦争概念を更新する快著。M・ハワード序 吉田朋正訳 2800円

## 生きるということ

モンテニユとの対話

海老坂武 老いを飼いならす。生きる〈企て〉と、生き直す試み。モンテニユとの対話から紡ぎ出す22の随想。2800円

## みすず書房 (税込)

東京都本郷2-20-7 [www.msza.co.jp](http://www.msza.co.jp)

慶應義塾大学出版会

<https://www.keio-up.co.jp/>

## 犬と会話する方法

動物行動学が教える人と犬の幸せ

パトリシア・B・マコーネル著／村井理子訳  
犬とよりよい関係を楽しみ、共に幸せに  
生きるための心得と方法を、動物行動  
学者／カリスマ・ドッグトレーナーが  
伝授するベストセラーエッセイ、待望  
の邦訳！ ◎2,640 円

## 日韓ポピュラー音楽史

歌謡曲からK-POPの時代まで

金成 玖著 日韓はいかに欲望しい、  
「POPの夢」を見たか。坂本九から BTS  
まで、音楽がおりなす戦後大衆史を一気  
にたどる！ ◎2,750 円

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 【価格税込】  
Tel 03-3451-3584 Fax 03-3451-3122

## 深化する歴史学 史資料からよみとく新たな歴史像

深化しつづける歴史研究の現在を示した二冊。新しく発見された  
史資料、近年重要視されるようになってきた史資料に注目する  
とともに、著名な史資料の新たな解釈を紹介。

## レイシャル・プロファイリング 警察による人種差別を問う

東京弁護士会外国人の権利に関する委員会によるアンケート調  
査などから、日本の警察の人種差別の実態を可視化。法制度、警  
察実務、統計的差別など、その不当性を多角的に検証する。

【編著】宮下 萌

【定価】4,400円(税込)

【編】歴史科学協議会

【定価】3,300円(税込)

## 大月書店

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-16

TEL 03-3813-4651 HP [otsukishoten.co.jp](http://otsukishoten.co.jp)

## 実存主義者の

## カフェにて

自由と存在と

アプリコットカクテルを

サラ・バイクウェル  
向井和美 訳

1933年、モンパルナスのカフェから生まれ  
た新しい思想は、やがて第二次大戦後の学生運  
動、公民権運動へとつながっていく。サルトル、  
ハイデッガー、ボーヴォワール……哲学と伝記を  
織り交ぜたストーリー・テリングで世界を魅了  
したノンフィクション。27か国で刊行！

▼定価4180円  
(10%税込)

紀伊國屋書店

出版部：東京都目黒区下目黒3-7-10  
営業TEL03(6910)0519

## 著作権はどこへいく？

税込3300円

活版印刷からクラウドへ  
ポール・ゴールドスタイン 著  
大島義則・酒井麻千子・比良友佳理・山根崇邦 訳  
デジタル時代に著作権が果たすべき役割・使命とは。法制度  
の行く末を占う。

## AIと著作権

税込3300円

上野達弘・奥邸弘司 編著  
生成AIをめぐる著作権法の最新動向と日本の議論状況を踏  
まえて今後の法規制を検討する。

## 男性学基本論文集

税込3960円

平山亮・佐藤文香・兼子 編  
「男性性とはどのようにつくりあげられるのか」をめぐる必読  
文献を集成。

勁草書房

TEL 03-3814-6861  
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1  
<https://www.keisoshobo.co.jp>

2024年4月25日発行 年3回発行 第146号

発行所 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7 みすず書房内

編集協力 アジュール・プロダクション

印刷 中央精版印刷株式会社

〈非売品〉